仙台市文化財調査報告書第158集

仙台市
町田遺跡

——発掘調査報告書——

1992年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第158集

仙台市
町　田　遺　跡

——発掘調査報告書——

１９９２年３月

仙台市教育委員会

序　　文

仙台市内には現在、700余ケ所の遺跡が登録されてており、毎年、数10ケ所において発掘調査が実施され、私たち仙台市民の祖先の暮らしを知るための貴重な資料が次々と掘り出されております。

生出地区におきましても、近年、国道バイパス建設等の地域開発が盛んにおこなわれ、それらに伴って多くの遺跡の調査が実施されこれまであまり知られていなかった本地区の原始・古代の様子が少しづつ解き明かされてきておりますことは誠に喜ばしいことであります。町田遺跡の調査は国道建設に伴う事前調査にひき続き、2度目の発掘調査にあたっておりますが、縄文時代の狩猟生活を偲ばせる陥し穴や、平安時代の集落の一端とみられる竪穴住居跡や当時の土器類、江戸時代の農村における生活の様子を探る建物跡などさまざまな資料が明らかになっております。調査の成果から、本遺跡は縄文時代から江戸時代にいたる長い期間にわたって営まれた複合遺跡であり、その範囲も当初考えられていたものより、さらに周辺に広がる大きな遺跡であることもわかってまいりました。

調査に際しましては、東北郵政局および地元の皆様方からの多大なる御協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げる次第であります。先人の残した貴重な文化遺産をつぎの世代に継承していくことは現代に生きる私たちの大きな責務でもありましょう。これからも文化財保護への深いご理解と御協力をお願いするとともに、本書が文化財愛護精神高揚の一助となりますことを願って止みません。

平成4年3月

仙台市教育委員会
教育長　**東海林　恒　英**

例　　言

1．本書は生出郵便局舎新築工事に伴う、町田遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、仙台市教育委員会が主体となり、平成２年４月16日から６月22日まで実施した。

3．本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の

4．本書中の、実測図の方位は磁北を基準にしている。

5．本書中の土色は「新版標準土色帖」（小川、竹原：1973）を使用した。

6．報告書作成は、次のとおりに分担した。

本文執筆　　木村浩二　Ⅰ．Ⅲ．Ⅳ．Ⅴ．Ⅶ．

　　五十嵐康洋　Ⅱ．Ⅳ　３．Ⅶ．

　　前田裕志　Ⅵ　１・２・４．Ⅶ．

遺構トレース　菅家婦美子

遺物実測　　五十嵐、小林史子、在川宏志、泉美恵子、菅谷裕子

遺物トレース　五十嵐、在川、泉、青山博樹

遺構写真撮影　木村、五十嵐、前田

遺物写真撮影　五十嵐、前田

編集は木村・五十嵐・前田がこれにあたった。

7．遺構略号は次のとおりである。

SB　建物跡　　SI　竪穴住居跡　　SX　その他の遺構

SK　土坑・墓壙　　P　ピット・小柱穴

8．遺物略号は次のとおりで、各々種別ごとに番号を付した。

A　縄文土器　　D　土師器（ロクロ使用）　　E　須恵器

H　瓦　　J　磁器　　K　石器・珪化木

N　金属製品　　Q　骨

7．本調査における出土遺物、図面、写真等は、仙台市教育委員会で一括保管しているので活用されたい。

目　　次

序　　文
例　　言
Ⅰ　調査に至る経過……1
Ⅱ　調査要項……2
Ⅲ　遺跡の位置と環境……3
Ⅳ　調査の方法と経過……9
Ⅴ　基本層位……9
Ⅵ　発見遺構と出土遺物……11
　1．竪穴住居跡……11
　2．掘立柱建物跡・塀跡……11
　3．土　　坑……16
　4．墓　　壙……24
　5．その他の遺構と遺物……36
Ⅶ　ま　と　め……37
写真図版……41

Ⅰ　調査に至る経過

仙台市一番町一丁目１番34号、東北郵政局長　丸山一敏氏より、仙台市茂庭字町北41-１外に郵便局庁舎新築工事に伴う発掘届が、平成元年１月19日付で提出された。届出によれば、敷地面積は2,030.26 m²、 その内建築面積は1,006 m²であるが、敷地全体の表土を1.60～1.75 mすき取ることとなっていたことから、事前調査を実施することとなった。周知の遺跡範囲は敷地の南西部の一部がかかっていたが、昭和62年度に実施された敷地南に接して東西にのびる国道286号線建設に際しての事前調査により、遺跡の範囲が東側に拡大することが確認されていたことから、協議の結果、敷地全域の試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、平成元年６月26・27日に東北郵政局建築部管財課の立ち会いで実施した。調査区は幅3～5 mのトレンチを南北方向に５本設定し、重機にて表土･撹乱土を排土し、遺構検出作業を行った。その結果、北西部は土取りのため遺構検出面がすでに消滅していたが、南・東部分では、表土下8～30 cmで遺構･遺物包含層を確認したことから、協議の結果、発掘調査が必要であり、仙台市教育委員会が調査を担当することとなった。

平成２年４月13日付で、発掘調査委託契約が締結され、野外調査は平成２年４月16日から６月22日まで行われた。概算委託料は6,848,000円であったが、確定使用額は4,353,749円である。

第１図　遺跡位置図

II　調査要項

1．遺　跡　名：町田遺跡（仙台市文化財登録番号 C-255）

2．所　在　地：仙台市太白区茂庭字町北

3．事業主体：東北郵政局

4．調査主体：仙台市教育委員会

5．調査担当：仙台市教育委員会文化財課

調　査　員：木村浩二、五十嵐康洋

調査補助員：前田裕志

6．調査期間：自　平成２年４月16日　至　平成２年６月22日

7．調査面積：約 1,300 m²（対象面積 2,030 m²）

8．調査参加者：菅家婦美子　在川宏志（以上整理も含む）

亀山カヨ　川村　信　菊地恵子　菊地栄子　桜谷勇作　佐藤　進　佐藤三代子　庄子かつえ　鈴木きぬ子　平間　栄　湯瀬由紀子

小林史子　畑中ゆかり（整理のみ）

9．調査協力：東北郵政局

太白区役所生出支所

Ⅲ　遺跡の位置と環境

1．地理的環境

町田遺跡は仙台市街中心部より南西約９km、 仙台市太白区茂庭字町北地内に所在する。この地区は、奥羽山系の一部である面白山地から仙台市東半部に広がる宮城野海岸平野にむかって派生する蕃山・青葉山・高館丘陵と、これらの丘陵を開析しながら東流する名取川によって形成された鈎取洪積台地とよばれる河成段丘からなっている。遺跡の所在する生出地区は名取川左岸、北側を蕃山丘陵、南側を高館丘陵にかこまれた盆地状を呈する河岸段丘上に位置している。遺跡はこの盆地の西端近くを開析して名取川に注ぐ岩ノ川の東側、標高約69ｍの段丘緩斜面に立地している。

2．歴史的環境

この周辺の丘陵及び段丘面には旧石器時代から近世に至る各時代の遺跡が分布しているが、名取川下流域に移行する山田地区以東の段丘面・沖積面に多くの遺跡が分布するのとは対象的に、狭い丘陵斜面・段丘上に立地しており、その数も少ない。

旧石器時代の遺跡は、名取川左岸山田地区段丘上に山田上ノ台遺跡(58)、北前遺跡(52)があり、旧石器時代前期・後期の遺物が出土している。

縄文時代早期～前期の遺跡は、梨野Ａ遺跡(15)、嶺山Ｂ遺跡(19)、沼原Ａ遺跡(22)、川添東遺跡(4)、北前遺跡(52)、山田上ノ台遺跡(58)、館前東遺跡(7)、中沖遺跡(9)等があり、北前では前期末葉の集落跡、末葉の土坑群が調査されている。

縄文時代中期の遺跡は、梨野・沼原等の茂庭団地造成地内の各遺跡の他、人来田遺跡(43)、人来田Ａ遺跡(41)、新熊野堂遺跡(29)、山田上ノ台遺跡等があり、梨野Ａでは後葉の住居跡、人来田では中葉の住居跡が調査されている。

縄文時代後期～晩期の遺跡は、中期と同様茂庭地内の各遺跡の他、峯岸遺跡(27)、門野山囲遺跡(28)等があり、梨野Ａ遺跡では晩期の土坑墓が調査されている。

また、これらの他にこの地区には大貝中(5)・大貝下(6)・向根(21)・西前(31)・新組(32)塩ノ瀬(33)・中ノ瀬(42)・羽黒堂前Ａ(56)・〃Ｂ(55)の縄文時代の遺跡がある。沼原Ａ・〃Ｂ・嶺山Ａ・〃Ｂ遺跡では陥し穴が発見されており、狩猟の場であったことがしられている。

弥生時代の遺跡は、縄文時代にくらべ遺跡数が減少し、沼原Ａ・Ｂ、門野山囲・人来田Ａ・中ノ瀬等があるが、各遺跡の詳細は不明である。この時代になると沖積平野部には水田農耕が定着し、生産基盤の変容に伴って生活の場が、丘陵部から水田耕作の可能な平野部に移っていったものとみられる。

古墳時代の遺跡は、梨野Ａ・梨野横穴群(37)・向根横穴群(39)・坂ノ下(40)・新組・塩ノ瀬・人来

第２図　遺跡分布図

第1表　遺　跡　地　名　表

NO	遺　跡　名	種　別	立　地	時　代
1	町田遺跡	包含地	河岸段丘	古墳・平安
2	茂庭大館	城館	丘陵	中世
3	カナクソ遺跡	生産跡（製鉄？）	丘陵	中世・近世
4	川添東遺跡	包含地	河岸段丘	縄文
5	大貝中遺跡	包含地	段丘	縄文・古墳・平安
6	大貝下遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文
7	沼尻遺跡		丘陵斜面	平安
	館前東遺跡	包含地	台地	縄文・平安
8	根添館跡	包含地	丘陵	中世
9	中沖遺跡	包含地	丘陵	縄文・平安
10	南沖東遺跡		丘陵斜面	平安
11	右京内遺跡		丘陵斜面	平安
12	境田遺跡		丘陵斜面	縄文
13	梨野Ｂ遺跡	包含地	丘陵斜面	奈良・平安
14	梨野Ｃ遺跡		丘陵斜面	縄文・奈良・平安
15	梨野Ａ遺跡	集落跡	丘陵斜面	縄文・古墳・奈良・平安・中世
16	梨野Ｄ遺跡	包含地	丘陵	
17	沼原Ｂ遺跡	狩猟域	丘陵	縄文（中期）～弥生（中期）
18	沼原Ｃ遺跡	散布地	丘陵	縄文（中期・後期）～平安
19	嶺山Ｂ遺跡	狩猟域	丘陵	縄文（中期～晩期）
20	嶺山Ａ遺跡	狩猟域	丘陵	縄文・平安
21	向根遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文・古墳・平安
22	沼原Ａ遺跡	狩猟域	丘陵	縄文・弥生・平安
23	嶺山Ｃ遺跡	生産跡	丘陵	縄文・平安
24	嶺館跡		丘陵	中世・江戸（天正）
25	茂庭西館跡	城跡	丘陵	中世・江戸（天正）
26	本郷遺跡		丘陵斜面	奈良・平安
27	嶺岸遺跡	包含地	河岸段丘	縄文
28	門野山囲遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文・弥生・平安
29	新熊野堂遺跡	沖積地	沖積地	縄文
30	町北東遺跡	包含地	河岸段丘	
31	西前遺跡		丘陵斜面	縄文
32	新組遺跡	包含地	河岸段丘	縄文・古墳・平安
33	塩ノ瀬遺跡	包含地	段丘	縄文・古墳・平安
34	ノマヤマ遺跡	生産跡（製鉄？）	丘陵斜面	
35	上前十三塚		丘陵斜面	中世
36	綱木Ａ遺跡	包含地	谷合	縄文
37	梨野横穴群	横穴古墳	丘陵	古墳
38	茂庭東館けんとう城跡	城館	丘陵	中世
39	向根横穴群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
40	坂ノ下遺跡	包含地		古墳・平安
41	人来田Ａ遺跡	包含地	台地	縄文・弥生
42	中ノ瀬遺跡	包含地	河岸段丘	縄文・弥生
43	人来田遺跡	集落跡	台地	縄文
44	人来田Ｃ遺跡	包含地	段丘	縄文・古墳・平安
45	人来田東遺跡		河岸段丘	縄文・奈良・平安
46	人来田Ｂ遺跡	包含地	河岸段丘	古墳・平安
47	北原遺跡		谷底平野	
48	青葉山遺跡	包含地	丘陵斜面	後期旧石器
49	佐保山東遺跡	包含地	丘陵	縄文・平安
50	御堂平遺跡		谷底平野	縄文・平安・中世
51	上野山遺跡		台地	縄文
52	北前遺跡	集落跡	河岸段丘	旧石器・縄文・平安・江戸
53	杉土手		丘陵	江戸
54	羽黒堂遺跡		段丘	縄文・奈良・平安
55	羽黒堂前Ｂ遺跡		段丘	縄文・古墳・平安
56	羽黒堂前Ａ遺跡		段丘	縄文・古墳・平安
57	山田上ノ台塚		段丘	
58	山田上ノ台遺跡	集落跡	段丘	旧石器・縄文・平安・江戸
59	汚田通Ａ遺跡		台地	縄文・平安
60	汚田通Ｂ遺跡		台地	平安
61	清田原西遺跡		自然堤防	縄文・平安
62	黒崎城跡	城館	丘陵	中世
63	小（古）館跡	城館	丘陵	中世
64	熊野堂大館跡	城館	丘陵	中世
65	大館山館跡	城館	丘陵	中世
66	向根東遺跡	包含地	沖積地	奈良・平安
67	上ノ原山遺跡	包含地	丘陵	旧石器・縄文・平安

田B(46)・人来田C・羽黒堂前A・〃B遺跡があり、梨野Aでは中期の土坑が調査されている。

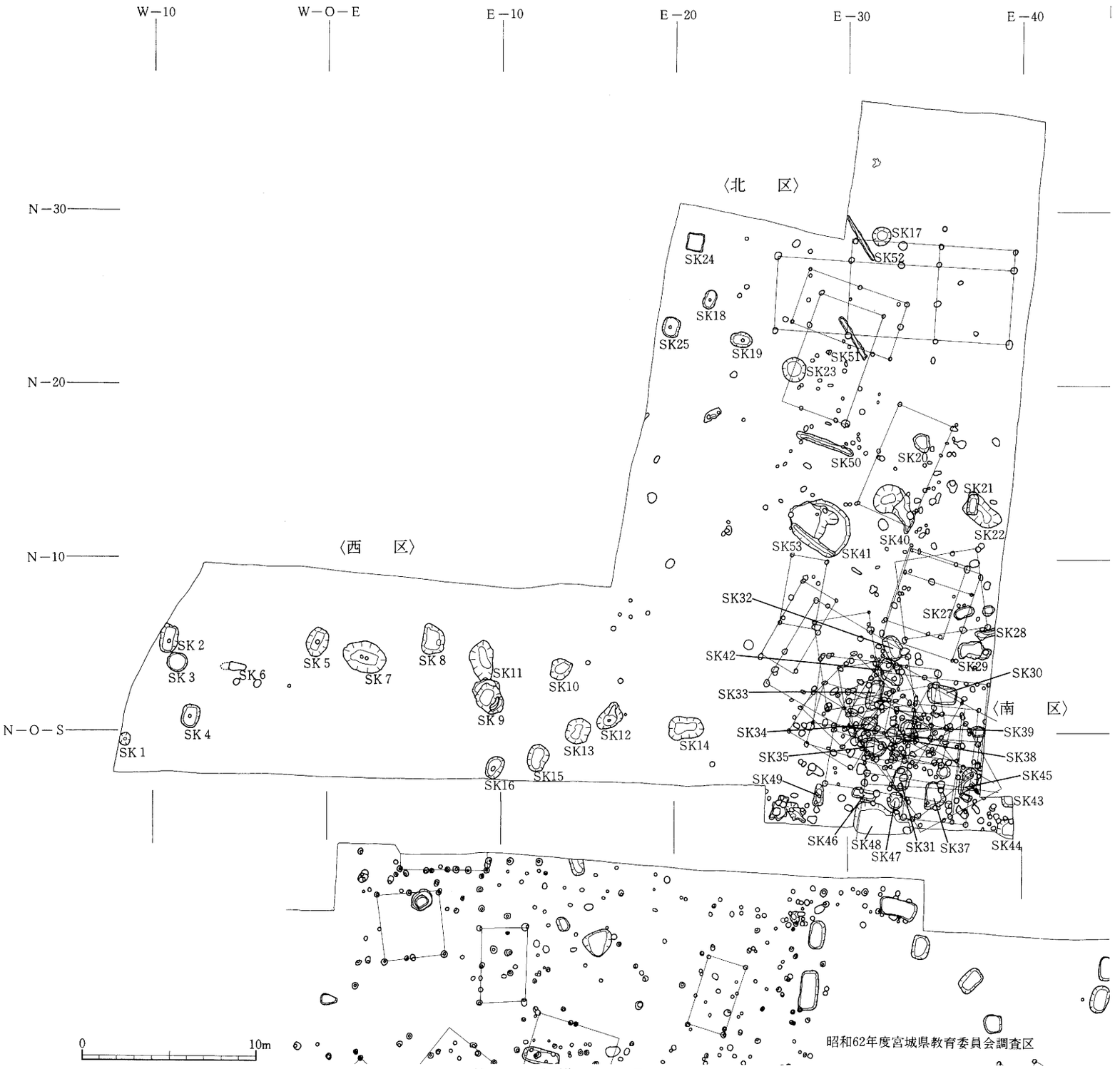
奈良時代の遺跡は梨野A・〃B(13)・本郷(26)・人来田東・羽黒堂・向根東遺跡(66)があるが、各遺跡とも詳細は不明である。

弥生時代から引き続き、古墳・奈良時代を通じて遺跡数も少なく、大規模な集落も作られていない。

平安時代の遺跡は大貝中・沼尻(7)・館前東・中沖・南沖東(10)・右京内(11)・梨野A・〃B・〃C・沼原B・嶺山A・〃C・向根・沼原A・門野山囲・坂ノ下・人来田B・〃C・人来田東・佐保山東・御堂平・北前・羽黒堂・羽黒堂前A・〃B・山田上ノ台・汚田通A・〃B(60)青田原西(61)・向根東遺跡がある。奈良時代にくらべ、遺跡数はかなり増加する。沼原A遺跡では竪穴住居跡、嶺山C遺跡では製鉄跡が発見されている。

中世になると茂庭低地を囲む周辺の丘陵には、茂庭大館(2)・嶺館(24)・茂庭西館(25)・茂庭東館(38)などの城館が集中してつくられる。

これらの他にカナクソ遺跡(2)・ノマヤマ遺跡(34)や茂庭西館西側では、鉄滓の散布が認められ、時代は不明であるが、平安時代以降、茂庭地区の丘陵地一帯で鉄生産が行われたものと考えられる。


W−10
W−O−E
E−10
E−20
E−30
E−40
N−30
N−20
N−10
N−O−S
〈北　区〉
〈西　区〉
〈南　区〉
SK17
SK52
SK24
SK18
SK25
SK19
SK51
SK23
SK50
SK20
SK21
SK22
SK40
SK53
SK41
SK32
SK27
SK28
SK42
SK29
SK30
SK33
SK39
SK34
SK38
SK35
SK45
SK49
SK43
SK46
SK48
SK47
SK31
SK37
SK44
SK 2
SK 3
SK 6
SK 5
SK 7
SK 8
SK11
SK10
SK 9
SK 4
SK 1
SK12
SK13
SK14
SK16
SK15
0
10m
昭和62年度宮城県教育委員会調査区

第3図　遺構配置図

Ⅳ　調査の方法と経過

今回調査の対象となったのは、町田遺跡として周知されていた範囲のうち北東部分にあたり遺跡をほぼ東西に貫く国道286号線敷地内の調査および、試掘調査により、遺跡範囲はさらに北・東側に拡大することが明らかになっていたことから、敷地全域を対象とした。しかし、敷地内北西部分はすでに土取りが成され、遺構検出面が削平されていたことから、これを除外した約 1300 m²について調査を行った。調査区は対象地区にあわせ不整」字形に設定し、便宜上、西区・南区・北区の 3 区に分けて調査を行った。

調査は 4 月16日から開始した。試掘調査の結果、表土直下の黄褐色シルト層（地山）上面で遺構を確認できたことから、重機により調査区全域の表土排除を行った。表土排除後、人力により、II層上面にて遺構検出作業を行った。5 月上旬までに全域の遺構検出作業と測量基準杭の設置作業を終了し、中旬より遺構精査に入った。精査は西区・北区・南区の順に進められた。南区南東隅は特に遺構が密集したことから、20 m²程の拡張調査を行った。調査の結果、竪穴住居跡 1 軒、掘立柱建物跡30棟を含む小柱穴・ピット489、 土坑53基等を検出した。これらの遺構については、国家座標を基準とする原点(×＝－197,650 m、　Y＝－3,800 m)を設置し、1/20の平面図・断面図を作成し、写真を撮影した。出土遺物は縄文土器・土師器・須恵器・陶器・磁器等の土器類、石器、煙管・古銭等の金属製品、人骨・人歯等であるが、層位・地点・遺構名・番号を付して収納した。調査の成果がほぼまとまった 6 月14日、郵政局への成果説明を行った他、19日には生出小学校 6 年児童が見学学習を行った。6 月22日、調査を全て終了した。

Ⅴ　基 本 層 位

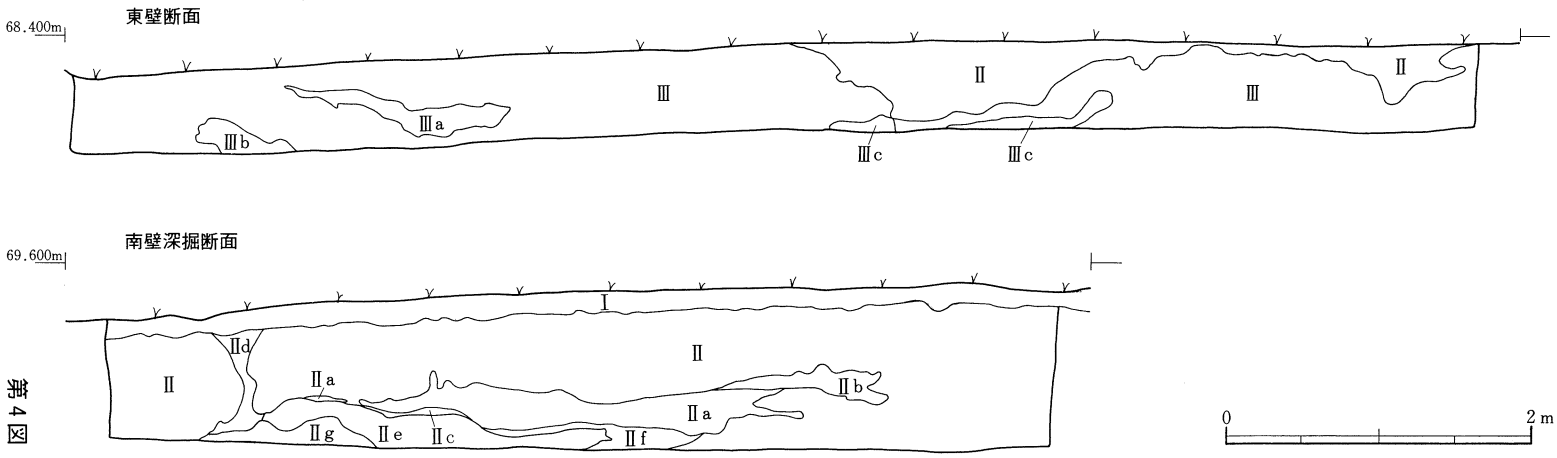
調査区は便宜上、西区・南区・北区の 3 区に分割し、西区の南西部と北区の北東部で基本層位の確認をするため深掘りをおこなった。

Ⅰ層　10YR4/6 褐色シルト　表土・耕作土

II層　10YR5/6・5/8 黄褐色シルト・粘土質シルト

III層　7.5YR4/4 褐色砂質シルト

遺構検出面はII層上面である。II・III層には褐色・黄褐色粘土質シルト・砂質シルト等が互層になっている。西区はII層中の礫混入ブロックが検出面上に露出しており、南区・北区はII層が殆どなく、III層が検出面となっている。



第4図　基本層位断面図

東壁断面

層　位	土　　色	土　　性	備　　考
基　本　層　位			
Ⅰ	10YR4/6　褐色	シルト	全体に小礫、炭化物を含む。(表土)
Ⅱ	10YR5/8　黄褐色	粘土質シルト	マンガン粒を均一に含む。
Ⅲ	7.5YR4/4　褐色	砂質シルト	多量のもろい礫（径40mm程）を全体的に含み、小礫を多量に含む。層全体に酸化鉄が付着している。
Ⅲa	10YR5/8　黄褐色	粘土質シルト	マンガン粒を全体的に含む。
Ⅲb	10YR4/6　褐色	砂質シルト	ブロック状に礫を含む。層の上部にマンガン粒、酸化鉄が付着している。
Ⅲc	10YR4/6　褐色	砂質シルト	ブロック状に礫を含む。全体的にマンガン粒を含む。

南壁深掘断面

層　位	土　　色	土　　性	備　　考
基　本　層　位			
Ⅰ	10YR4/6　褐色	シルト	全体に小礫、炭化物を含む。(表土)
Ⅱ	10YR5/6　黄色	シルト	10YR2/3黒褐色シルトと10YR6/8明黄褐色シルトを含み、全体に多量の礫と小礫を含む。(礫層)
Ⅱa	10YR6/8　明黄色	粘土質シルト	7.5YR4/4褐色粘土質シルトを全体に帯状に含み、10YR4/6褐色砂質シルトをブロック状に含む。酸化鉄を含む。
Ⅱb	10YR5/4　にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/6褐色砂質シルトと10YR3/3暗褐色シルトを帯状に互層に含む。少量の酸化鉄を含む。
Ⅱc	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトを小ブロック状に含み、全体に酸化鉄を含む。
Ⅱd	10YR3/2　黒褐色	粘土質シルト	10YR2/3黒褐色粘土を小ブロック状に含み、小礫を含む。層の周りに酸化鉄が付着している。(木根？)
Ⅱe	10YR4/4　褐色	砂質シルト	全体に多量の小礫を含む。(礫層)
Ⅱf	7.5YR3/4　暗褐色	砂質シルト	全体に小礫を含み、酸化鉄を含む。
Ⅱg	10YR5/4　にぶい黄褐色	砂質シルト	少量の小礫を含み、酸化鉄を含む。

Ⅵ　発見遺構と出土遺物

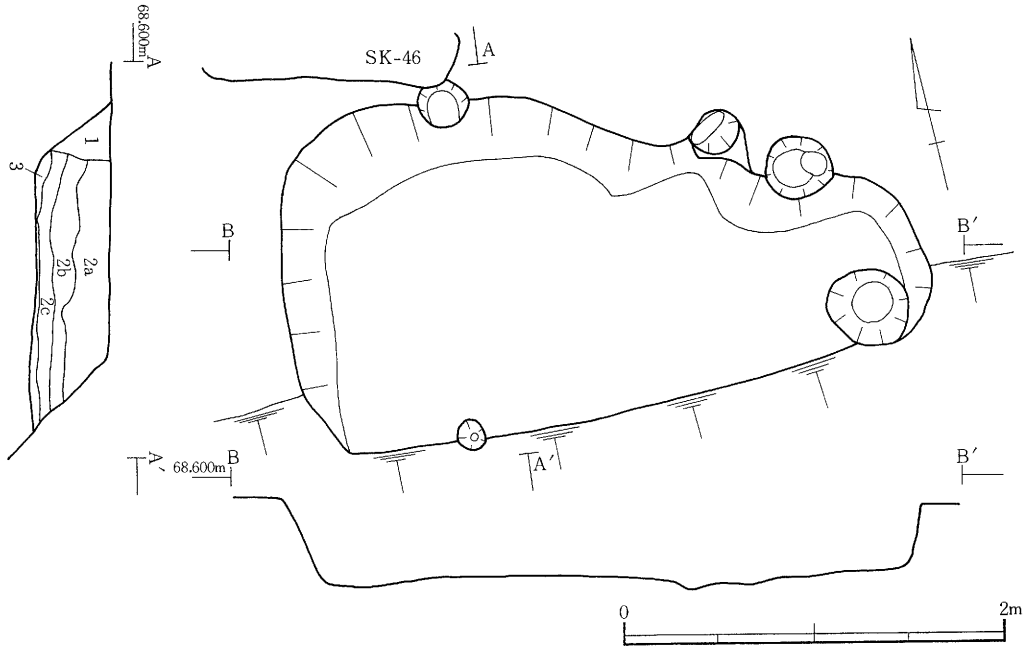
1．竪穴住居跡

SI48 竪穴住居跡　調査区南拡張区に位置している。南側が既存道路の法面としてすでに削平されているので全容はあきらかではない。上端長軸 350 cm 以上、短軸 180 cm 以上で、平面形は方形を呈すると思われる。深さは 39 cm で、床面は平坦である。堆積土は暗褐色・黒褐色・褐色の 3 層であり、全体に炭化物を含んでいる。遺物は縄文土器片11点、K-21～26 石器片 6 点、K-27・28・50 珪化木 3 点、土師器片13点、陶磁器片 2 点が出土している。

2．掘立柱建物跡・塀跡

調査区全体で489の小柱穴・ピットが検出され、南区と北区に柱穴と考えられるものがあり、特に南区に集中しており、それらの組合せによって30棟の掘立柱建物跡と 1 列の塀跡が確認された。

SB54 建物跡　桁行 3 間、総長 13.7 m(柱間寸法 4.2～5.1 m、 平均 3.4 m)、梁行 2 間、総長 4.4 m、 (柱間寸法 2.1～2.3 m、 平均 3.4 m) の東西棟建物で、建物北側桁列から 1 m 北に西から 2 間分(総長 9.4 m)の廂もしくは張り出しを持つ。東西柱列の方向は E-3°-S である。柱穴掘り方は直径 28～36 cm、 柱痕跡の直径は 10～12 cm である。



SI48	1	10YR 3/4 暗褐色	シルト	10YR 2/3 黒褐色シルト、小礫、炭化物
	2a	10YR 2/3 黒褐色	シルト	10YR 5/6 黄褐色シルト、炭化物、礫
	2b	10YR 2/3 黒褐色	シルト	10YR 5/6 黄褐色シルト、炭化物、礫
	2c	10YR 2/3 黒褐色	シルト	10YR 5/6 黄褐色シルト、炭化物、礫
	3	10YR 4/6 褐色	シルト	10YR 2/3 黒褐色シルト、炭化物

第 5 図　竪穴住居跡平・断面図

SB55 建物跡　桁行2間、総長6.0m（柱間寸法3.0m）、梁行1間総長3.2mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-19°-Sである。柱穴掘り方は直径14～28cm、柱痕跡の直径は10～16cmである。

SB56 建物跡　桁行1間、総長4.0m、梁行1間、総長2.0mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-10°-Eである。柱穴は直径22～26cmの掘り方を持つ。

SB57 建物跡　桁行4間、総長6.8m（柱間寸法1.4～1.9m、平均1.7m）、梁行2間、総長3.9mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-6°-Sである。柱穴掘り方は直径20～37cm、柱痕跡の直径は14cmである。

SB58 建物跡　桁行2間、総長4.0m（柱間寸法2.0m）、梁行1間、総長2.7mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-10°-Nである。柱穴掘り方は直径22～32cmである。

SB59 建物跡　東西・南北2間、総長4.0m（柱間寸法2.0m）の正方形の建物で、柱穴掘り方は直径28～38cmである。

SB60 建物跡　桁行2間、総長4.3m（柱間寸法2.0～2.3m、平均2.1m）、梁行1間、総長2.4mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-19°-Sである。柱穴掘り方は直径22～34cmである。

SB61 建物跡　桁行2間、総長5.3m（柱間寸法2.5～2.8m、平均2.6m）、梁行2間、総長3.7m（柱間寸法1.8～1.9m、平均1.85m）の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-26°-Sである。柱穴掘り方は直径18～30cmである。

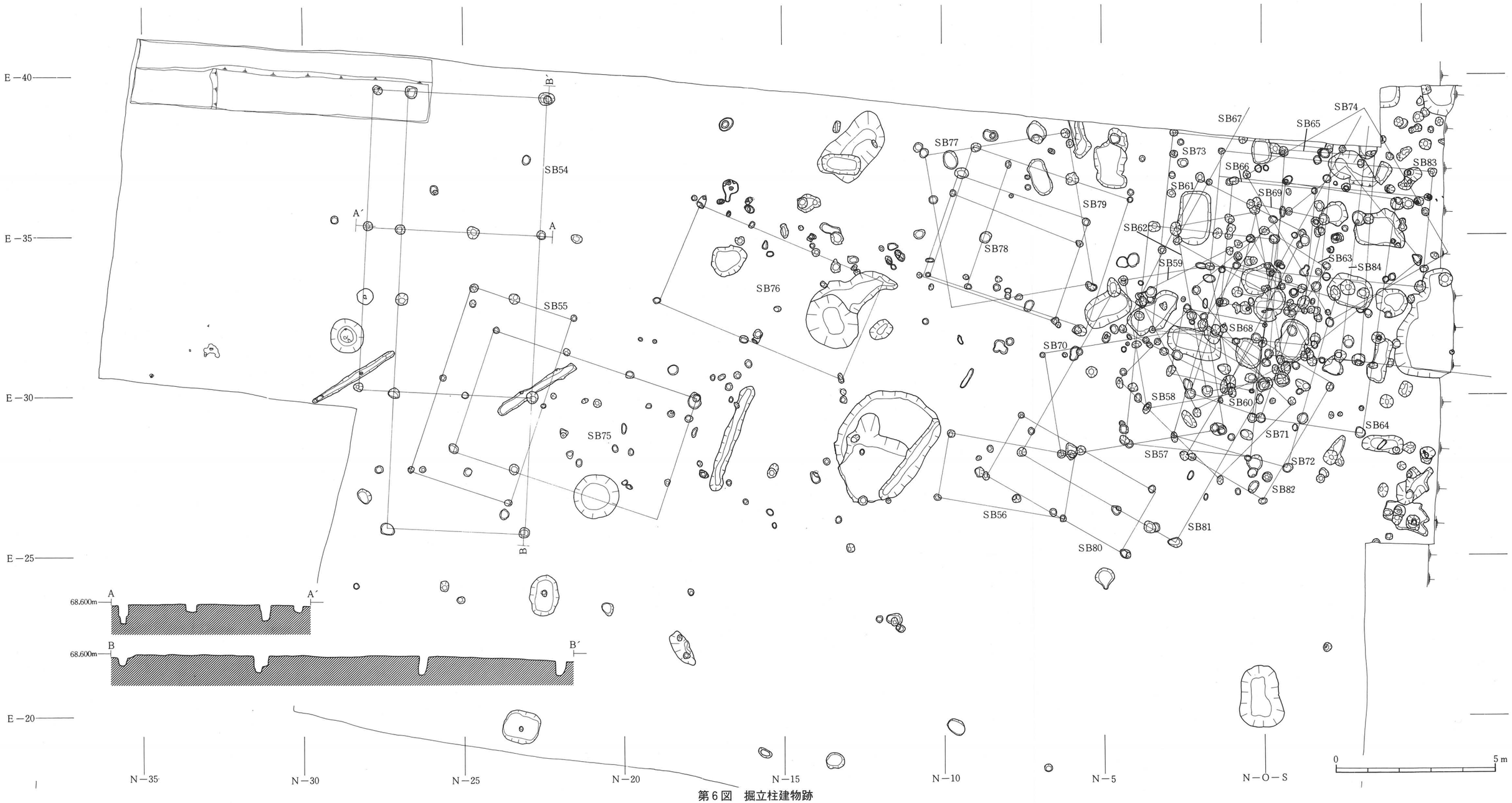
SB62 建物跡　桁行2間、総長5.2m（柱間寸法2.4～2.8m、平均2.6m）梁行1間、総長2.5mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-10°-Nである。柱穴掘り方は直径22～36cmである。

SB63 建物跡　桁行2間、総長3.6m(柱間寸法1.8m)、梁行1間、総長2.25mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-32°-Sである。柱穴掘り方は直径26～30cmである。

SB64 建物跡　桁行3間、総長7.3m（柱間寸法2.2～2.7m平均2.43m）、梁行1間、総長3.6mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-8°-Sである。柱穴掘り方は直径18～36cm、柱痕跡の直径は8～10cmである。

SB65 建物跡　桁行3間、総長6.5m（柱間寸法2.0～2.3m平均2.16m）、梁行2間、総長2.8m（柱間寸法1.4m）の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-4°-Sである。柱穴掘り方は直径18～34cm、柱痕跡の直径は8cmである。

SB66 建物跡　桁行2間、総長3.9m（柱間寸法1.8～2.1m平均1.95m）、梁行1間、総長2.6mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-6°-Sである。柱穴掘り方は直径16～28cm、柱痕跡の直径は14cmである。


E−40
E−35
E−30
E−25
E−20
N−35
N−30
N−25
N−20
N−15
N−10
N−5
N−0−S
0
5 m
68.600m
A
A′
B
B′
SB54
SB55
SB56
SB57
SB58
SB59
SB60
SB61
SB62
SB63
SB64
SB65
SB66
SB67
SB68
SB69
SB70
SB71
SB72
SB73
SB74
SB75
SB76
SB77
SB78
SB79
SB80
SB81
SB82
SB83
SB84

第６図　掘立柱建物跡

SB67 建物跡　桁行3間以上、総長6.5m以上(柱間寸法2.0～2.1m平均2.05m)、梁行2間、総長3.2m(柱間寸法1.6m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-29°-Sである。柱穴掘り方は直径20～26cmである。

SB68 建物跡　桁行1間、総長2.6m、梁行1間、総長2.1mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-12°-Eである。柱穴掘り方は直径16～24cmである。

SB69 建物跡　桁行1間、総長2.8m、梁行1間、総長2.1mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-13°-Sである。柱穴掘り方は直径30～34cmである。

SB70 建物跡　桁行3間、総長5.1m(柱間寸法1.4～2.2m平均1.7m)、梁行1間、総長3.2mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-9°-Wである。柱穴掘り方は直径18～24cm、柱痕跡の直径は18cmである。

SB71 建物跡　桁行2間、総長4.4m(柱間寸法2.0～2.4m平均2.2m)、梁行1間、総長3.2mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-45°-Eである。柱穴掘り方は直径22cmである。

SB72 建物跡　桁行3間、総長5.5m(柱間寸法1.6～2.2m平均1.8m)、梁行2間、総長3.7m(柱間寸法1.7～2.0m平均1.85m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE－13°－Sである。柱穴掘り方は直径22～34cm、柱痕跡の直径は8cmである。

SB73 建物跡　桁行3間、総長6.1m(柱間寸法1.8～2.3m平均2.03m)、梁行2間、総長5.0m(柱間寸法2.3～2.7m平均2.5m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-6°-Sである。柱穴掘り方は直径20cmである。

SB74 建物跡　桁行3間、総長5.2m(柱間寸法1.6～2.0m平均1.73m)、梁行1間、総長4.2mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-30°-Nである。柱穴掘り方は直径24～28cm、柱痕跡の直径は16cmである。

SB75 建物跡　桁行3間、総長6.6m(柱間寸法2.1～2.3m平均2.2m)、梁行1間、総長4.0mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-19°-Eである。柱穴掘り方は直径20～32cm、柱痕跡の直径は18cmである。

SB76 建物跡　桁行3間、総長6.3m(柱間寸法1.7～2.3m平均2.1m)、梁行1間、総長3.75mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-22°-Eである。柱穴掘り方は直径18～26cmである。

SB77 建物跡　桁行1間、総長4.8m、梁行2間、総長4.5m(柱間寸法1.2～1.3m平均1.25m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-9°-Nである。柱穴掘り方は直径24～28cmである。

SB78 建物跡　桁行1間、総長4.3m、梁行1間、総長2.6mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-19°-Eである。柱穴掘り方は直径18～20cmである。また南北桁列から西に0.7mのところに廂もしくは張り出しを持つ。

SB79 建物跡　桁行1間、総長4.2m、梁行2間、総長4.0m(柱間寸法2.0m)の東西棟

建物で、東西柱列の方向はE-19°-Sである。柱穴掘り方は直径18～40 cmである。また東西桁列から北に0.8 mのところに廂もしくは張り出しを持つ。

SB80 建物跡　桁行2間、総長4.8 m（柱間寸法2.2～2.5 m平均2.35 m）、梁行1間、総長2.2 mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-30°-Eである。柱穴掘り方は直径22～28 cmである。

SB81 建物跡　桁行3間、総長5.8 m（柱間寸法1.8～2.0 m平均1.93 m）、梁行2間、総長5.5 m（柱間寸法2.0～3.5 m平均2.75 m）の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-30°-Sである。柱穴掘り方は直径18～42 cmである。

SB82 建物跡　桁行1間、総長4.2 m、梁行1間、総長2.8 mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-30°-Sである。柱穴掘り方は直径24～30 cm、柱痕跡は直径16 cmである。

SB83 建物跡　桁行2間、総長6.6 m（柱間寸法2.6～4.0 m平均3.3 m）、梁行1間、総長2.8 mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-6°-Eである。柱穴掘り方は直径24～32 cmである。また南北桁列から西に0.8 mのところに柱間3間（柱間寸法1.9～3.0 m平均2.2 m）の廂もしくは張り出しを持つ。

SA84 塀跡　東西3間以上、総長6.5 m以上（柱間寸法2.1～2.2 m）でさらに東にのびる。柱列の方向はE-8°-Sである。柱穴掘り方は直径50～80 cm、柱痕跡は直径10～12 cmである。西端は途切れているが、南に屈曲して延びる可能性もある。

3．土　　坑

SK1 土坑

調査区西区に位置している。土坑の西側が調査区外にのびるため全容は明確ではない。上端径約76 cm、平面形はほぼ円形を呈していると思われる。下端径20 cm、底面はほぼ平坦で、平面形はほぼ円形を呈している。深さは13 cm、壁は緩やかに立ち上がるが、南側で中位に段を持つ。堆積土は黄褐色、明黄褐色シルトで、全体に小礫を含む。出土遺物はない。

SK2 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸160 cm、短軸74 cm、平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸138 cm、短軸50 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは66 cm、壁は急角度に立ち上がり断面形は逆台形である。底面中央やや南寄りにピットを1基有する。上端径18 cmで、平面形は円形を呈している。深さは50 cm、西側にむかって斜めに掘り込まれている。堆積土は黒褐色、暗褐色シルトで、2層の上面に礫を含んでいる。遺物は、縄文土器片2点を出土している。

SK4 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸130 cm、短軸98 cm、平面形は楕円形を呈している。

下端長軸 115 cm、 短軸 68 cm、 底面は平坦で、平面形は南側がとびでた不整楕円形を呈している。深さは 76 cm、 壁はほぼ垂直に立ち上がっている。底面中央にピットを 1 基有する。上端径 18 cm、 平面形は円形を呈している。深さは 28 cm で、円錐形に掘り込まれている。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトで、全体的に小礫を含んでいる。遺物は、剝片 K-43（第14図 4 ）他 1 点、縄文土器片13点を出土している。

SK5 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 166 cm、短軸 117 cm、平面形は楕円形を呈している。下端軸 110 cm、 短軸 45 cm、 底面はほぼ平坦で平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 86 cm、 壁は開口部へ向かって外傾している。断面形は逆台形を呈している。底面中央ピットを 1 基有する。上端径 20 cm、 平面形は円形を呈している。深さは 60 cm、 垂直に掘り込まれている。堆積土は暗褐色、にぶい黄褐色シルトで、全体に礫を含んでいる。遺物は、縄文土器 A-12（第15図 9 ）を出土している。

SK6 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 95 cm、 短軸 45 cm、 平面形は不整形を呈している。下端長軸 110 cm、 短軸 20 cm で、西へオーバーハングしている。平面形は不整楕円形を呈している。断面形は逆台形である。堆積土は、黒褐色シルトである。出土遺物はない。

SK7 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 250 cm、短軸 178 cm、平面形は楕円形を呈している。下端長軸 154 cm、 短軸 70 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は不整隅丸長方形を呈している。深さは 100 cm あり、壁は開口部へ向かって外傾している。断面形は逆台形である。また、底面中央にはピットを 2 基有する。どちらも平面形はほぼ円形を呈しており、西側のピットは上端径 20 cm、 深さは 36 cm で、ほぼ垂直に掘り込まれている。東側のピットは上端径 18 cm、 深さは 44 cm で、ほぼ垂直に掘り込まれている。堆積土は黒褐色、暗褐色シルト、褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色粘土質シルトで、全体的に小礫を含む。遺物は、剝片 K-18（第13図11）を出土している。

SK9 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 219 cm、 短軸 148 cm、 平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 94 cm、 短軸 66 cm、 底面は中央がやや凹んだ船底形で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 70 cm、 壁は緩やかに立ち上がり、南側に段が認められる。堆積土は暗褐色、にぶい黄褐色シルトで、全体に小礫を多く含む。出土遺物はない。SK11 土坑を切っている。

SK10 土坑

調査区西区に位置している。北側の一部がすでに削平されており、平面形は明確ではない。上端長軸 115 cm 以上、短軸 114 cm 以上と推定される。深さは 40 cm で底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色、暗褐色シルトである。出土遺物はない。

SK11 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 200 cm 以上、短軸 121 cm、 平面形は不整楕円形を呈していると推定される。深さは 63 cm、 底面は凸凹している。壁は緩やかに立ち上がり中位に段をもっている。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトである。遺物は、石鏃 K-10（第13図 9）他 1 点、縄文土器片 3 点を出土している。SK9 号土坑に切られている。

SK12 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 149 cm、 短軸 89 cm、 平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 80 cm、 短軸 48 cm、 底面は中央部が凹んだ船底形で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 76 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 16 cm、 平面形は楕円形である。深さは 15 cm で、垂直に掘り込まれている。堆積土は黒褐色、褐色シルト、暗褐色粘土質シルトで、小礫を多く含んでいる。遺物は、土師器片 1 点が出土している。

SK13 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 147 cm、 短軸 122 cm、 平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 81 cm、 短軸 34 cm で、底面は北西側に傾き、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 98 cm、 壁は角度を持って立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色、黒褐色シルト、褐色砂質シルトで、全体に小礫を多く含んでいる。出土遺物はない。

SK14 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 193 cm、 短軸 115 cm、 平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 120 cm、 短軸 43 cm、 底面はほぼ平坦であり平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 86 cm で、壁は角度をもって立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色シルト、暗褐色砂質シルトで、下層になるほど砂質になる。出土遺物はない。

SK15 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 152 cm、短軸 111 cm、平面形は楕円形を呈している。下端長軸 126 cm、 短軸 57 cm、 底面は中央がやや凹んでおり平面形は不整形を呈している。深さは 86 cm で、壁は開口部へ向かって外傾している。断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色シルト、褐色粘土質シルトで、上層に小礫を多く含む。出土遺物はない。

SK16 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 121 cm、 短軸 93 cm、 平面形は楕円形を呈している。

下端長軸 102 cm、 短軸 43 cm、 底面は平坦で、平面形は楕円形を呈している。深さは 80 cm である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 24 cm で、平面形は楕円形を呈している。深さは 60 cm、 ほぼ垂直に掘り込まれている。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトで、全体に小礫を多く含む。出土遺物はない。

SK18 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 112 cm、 短軸 69 cm、 平面形は楕円形を呈する。下端長軸 106 cm、 短軸 52 cm、 底面は平坦であり平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 38 cm、 壁は北東側で若干オーバーハングするがほぼ垂直に立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 14 cm、 平面形は円形を呈している。深さは 44 cm、 円錐形に掘り込まれている。堆積土は暗褐色シルト、褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。

SK19 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 124 cm、 短軸 86 cm、 平面形は楕円形を呈している。下端長軸 96 cm、 短軸 51 cm、 底面は中央が凹んだ船底形で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 60 cm、 壁は西側に少し外傾するがほぼ垂直に立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 18 cm、 平面形は楕円形を呈している。深さは 41 cm、 斜めに掘り込まれている。堆積土は褐色シルト質粘土、暗褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。

SK20 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 116 cm、 短軸 88 cm、 平面形は不整形を呈している。下端長軸 82 cm、 短軸 54 cm、 底面は中央が凹んだ船底形で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 19 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色シルト、褐色粘土質シルトで全体に小礫を含んでいる。出土遺物はない。

SK21 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 120 cm、 短軸 60 cm、 平面形は隅丸長方形を呈する。下端長軸 104 cm、 短軸 80 cm、 平面形は隅丸長方形を呈している。堆積土は暗褐色シルトである。遺物は、石鏃 K-9（第13図 5 ）が出土している。SK22 土坑を切っている。

SK22 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 224 cm、 短軸 124 cm、 平面形は不整隅丸長方形を呈している。下端長軸 130 cm、 短軸 23 cm で、平面形は不整な長楕円形を呈している。深さは 59 cm で、壁は、緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色、褐色粘土質シルトで、全体に小礫と炭化物を含んでいる。出土遺物はない。SK21 土坑に切られている。

SK23 土坑

調査区北区に位置している。上端径 140 cm で、平面形はほぼ円形を呈している。深さは 50

cm、底面は平坦で、壁は開口部へ向かって外傾し途中からより強く外傾する。堆積土は暗褐色シルト、にぶい黄褐色シルト質粘土で、酸化鉄を多量に含んでいる。出土遺物はない。

SK24 土坑

調査区北区に位置している。東西方向が若干短いが、ほぼ幅 100 cm の正方形を呈している。深さは 16 cm、底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色シルト、暗褐色シルト質粘土である。出土遺物はない。

SK25 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 114 cm、短軸 100 cm、平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 108 cm、短軸 66 cm、底面は中央が凹んだ船底形で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 45 cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 16 cm、平面形は楕円形である。深さは 30 cm、垂直に掘り込まれている。堆積土は暗褐色粘土質シルトで、全体に礫を含んでいる。出土遺物はない。

SK27 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 115 cm、短軸 58 cm、平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 101 cm、短軸 43 cm、平面形は不整楕円形である。深さは 5 cm、底面はほぼ平坦である。出土遺物はない。

SK28 土坑

調査区南区に位置している。東側の一部が調査区外に伸びるため詳細は明確ではない。上端長軸 112 cm 以上、短軸 42 cm 以上、平面形は不整形を呈するものと推定される。出土遺物はない。

SK29 土坑

調査区南区に位置している。長軸 134 cm、短軸 95 cm、平面形は不整形を呈している。下端長軸 124 cm、短軸 51 cm、底面は凸凹している。深さは 11 cm、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は褐色、暗褐色シルトである。出土遺物はない。ピット490に切られている。

SK30 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 167 cm、短軸 99 cm、平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 138 cm、短軸 80 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 26 cm、壁は開口部へ向かって外傾している。堆積土は黒褐色シルト、にぶい黄褐色粘土質シルトであり、全体に小礫と炭化物を若干含む。出土遺物はない。ピット230、241に切られている。

SK31 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 144 cm、短軸 94 cm、平面形は不整楕円形を呈して

いる。下端長軸 104 cm、 短軸 74 cm 底面はほぼ平坦で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは56 cm、壁は西側で垂直に立ち上がるが、東側はなだらかである。底面にピット状の落ち込みが 3 基ある。堆積土は暗褐色シルト、にぶい黄橙色粘土質シルトである。遺物は、土師器片 2 点と摩滅し形態の不明の土器片 5 点が出土している。ピット107を切っている。

SK32 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 149 cm、 短軸 90 cm、 平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 132 cm、 短軸 52 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 14 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は褐色粘土質シルト、褐色粘土質シルトで礫を多く含む。遺物は、縄文土器 A-14 (第15図11) を出土している。SK36 土坑に切られている。

SK33 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 173 cm、 短軸 82 cm、 平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 136 cm、 短軸 60 cm、 底面は平坦で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 25 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は、暗褐色シルト、黄褐色粘土質シルトで全体に酸化鉄、炭化物を含む。遺物は、剝片 K-37 (第13図 6)、縄文土器片 3 点を出土している。ピット114、 124に切られている。

SK34 土坑

調査区南区に位置している。上端径 92 cm で、平面形はほぼ円形を呈している。下端径 60 cm、 深さは 7～14 cm、 東側に傾斜しており平面形は楕円形である。堆積土は黒褐色、黄褐色シルトである。遺物は、縄文土器片 2 点を出土している。ピット116、 117、 118に切られている。

SK35 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 130 cm、 短軸 80 cm、 平面形は不整形を呈している。下端長軸 110 cm、 短軸 66 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は不整形を呈している。深さは 16 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色、褐色シルトである。遺物は、土師器片 5 点が出土している。ピット120、 127、 130、 131に切られている。

SK36 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 60 cm、 短軸 42 cm、 平面形は楕円形を呈している。下端長軸 33 cm、 短軸 22 cm、 平面形は楕円形を呈している。深さは 13 cm である。出土遺物はない。SK32 土坑を切っている。

SK37 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 140 cm、 短軸 100 cm、 平面形は南西にとびでた不整形を呈している。下端長軸 120 cm、 短軸 82 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は不整形を呈し

ている。深さは 40 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトである。遺物は縄文土器片 1 点、土師器片 4 点、須恵器片 1 点、磁器片 1 点が出土している。ピット44、461に切られている。

SK38 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 106 cm、 短軸 82 cm、 平面形は楕円形を呈している。下端長軸 94 cm、 短軸 30 cm、 底面は中央がやや凹んだ船底形で、平面形は不整形を呈している。深さは 9 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色シルト、にぶい黄橙色粘土質シルトである。出土遺物はない。SK39 土坑を切っている。

SK39 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 124 cm、 短軸 84 cm、 平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 106 cm、 短軸 68 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 14 cm で、壁は開口部へ向かって外傾している。堆積土は暗褐色、黄褐色シルトである。出土遺物はない。SK38 土坑、ピット65、 491、 492、 493に切られている。

SK40 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 172 cm、 短軸 140 cm、 平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 88 cm、 短軸 50 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 87 cm、 壁は開口部に向かって外傾し、断面形は逆台形である。また、底面南寄りにピットが 1 基ある。上端長軸 24 cm、 短軸 20 cm、 深さは 10 cm である。平面形は不整楕円形である。堆積土は黒褐色、暗褐色シルト、褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。

SK41 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 384 cm、 短軸 274 cm、 平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 245 cm、 短軸 202 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 40 cm、 壁は開口部へ向かっている外傾している。堆積土は暗褐色、褐色シルト、黒褐色粘土質シルトで全体に小礫を含んでいる。遺物は、縄文土器片 4 点が出土している。SK53 土坑、ピット336、 337、 341に切られている。

SK42 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 168 cm、 短軸 88 cm、 平面形は不整形を呈している。下端長軸 154 cm、 短軸 64 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は不整形を呈している。深さは 10 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色、褐色シルトである。出土遺物はない。ピット229、 231に切られている。

SK43 土坑

調査区南区に位置している。土坑の北側および東側が調査区外へ伸びるため、詳細は明確で

はない。上端長軸 60 cm 以上、短軸 58 cm 以上と推定される。平面形は方形を呈するものと思われる。底面は平坦であり、深さは 42 cm で壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色、暗褐色シルトである。遺物は、縄文土器片が 1 点出土している。

SK44 土坑

調査区南区に位置している。土坑の南側および東側が調査区外へ伸びるため、詳細は明確ではない。上端長軸 102 cm 以上、短軸 88 cm 以上と推定される。平面形は方形を呈するものと思われる。底面は平坦であり、深さは 45 cm、 壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色シルトである。遺物は、土師器片 1 点、珪化木 2 点が出土している。ピット444に切られている。

SK45 土坑

調査区南区に位置している。土坑の東側が攪乱されており、詳細は明確ではない。上端長軸 165 cm 以上、短軸 94 cm 以上と推定される。出土遺物はない。ピット468に切られ、ピット470を切っている。

SK46 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 138 cm、 短軸 45 cm、 平面形は不整隅丸長方形を呈している。下端長軸 121 cm、 短軸 34 cm、 底面はほぼ平坦である。深さは 17 cm である。出土遺物はない。ピット473に切られ、ピット139、 474、 476を切っている。

SK47 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 101 cm、 短軸 76 cm、 平面形は不整楕円形を呈している。下端長軸 60 cm、 短軸 40 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は不整形を呈している。深さは 21 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色、褐色シルトで若干の小礫を全体に含む。遺物、宋銭 N-4（第16図 2 ）が出土している。

SK49 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 126 cm、 短軸 50 cm、 平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 80 cm、 短軸 30 cm、 底面中央に幅 14 cm 程の溝状の落ち込みがある。深さは 90 cm、 壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色、褐色シルト、にぶい黄橙色粘土で酸化鉄を全体に含む。遺物は、宋銭 1 点が出土している。ピット481、 482に切られている。

SK50 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 348 cm、 短軸 40 cm、 平面形は長楕円形を呈している。下端長軸 318 cm、 短軸 16 cm、 底面は船底形で、平面形は長楕円形を呈している。深さは 40 cm、 壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物はない。ピット335に切られている。

SK51 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 280 cm、 短軸 28 cm、 平面形は長楕円形を呈してい

る。下端長軸 270 cm、 短軸 16 cm、 底面は船底形で、平面形は長楕円形を呈している。深さは 30 cm、 壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物はない。ピット407に切られている。

SK52 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 299 cm、 短軸 25 cm、 平面形は長楕円形を呈している。下端長軸 296 cm、 短軸 13 cm、 底面は凸凹しており南東側で若干オーバーハングし、平面形は長楕円形である。深さは 25 cm、 壁はほぼ垂直に立ち上がる。また、中央にピットが 1 基あり、平面形はほぼ円形である。上端径 10 cm、 深さ 16 cm で垂直に掘り込まれている。堆積土は暗褐色、褐色シルトである。出土遺物はない。

SK53 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 297 cm、 短軸 56 cm、 平面形は長楕円形を呈している。下端長軸 284 cm、 短軸 20 cm、 底面はほぼ平坦で、平面形は長楕円形をしている。深さは 29 cm、 両端がオーバーハングしている。出土遺物はない。SK41 土坑を切っている。

4．墓　　壙

今回の調査では出土遺物などから明らかに江戸時代以降と考えられる墓壙が 3 基検出されている。

ＳＫ３墓壙

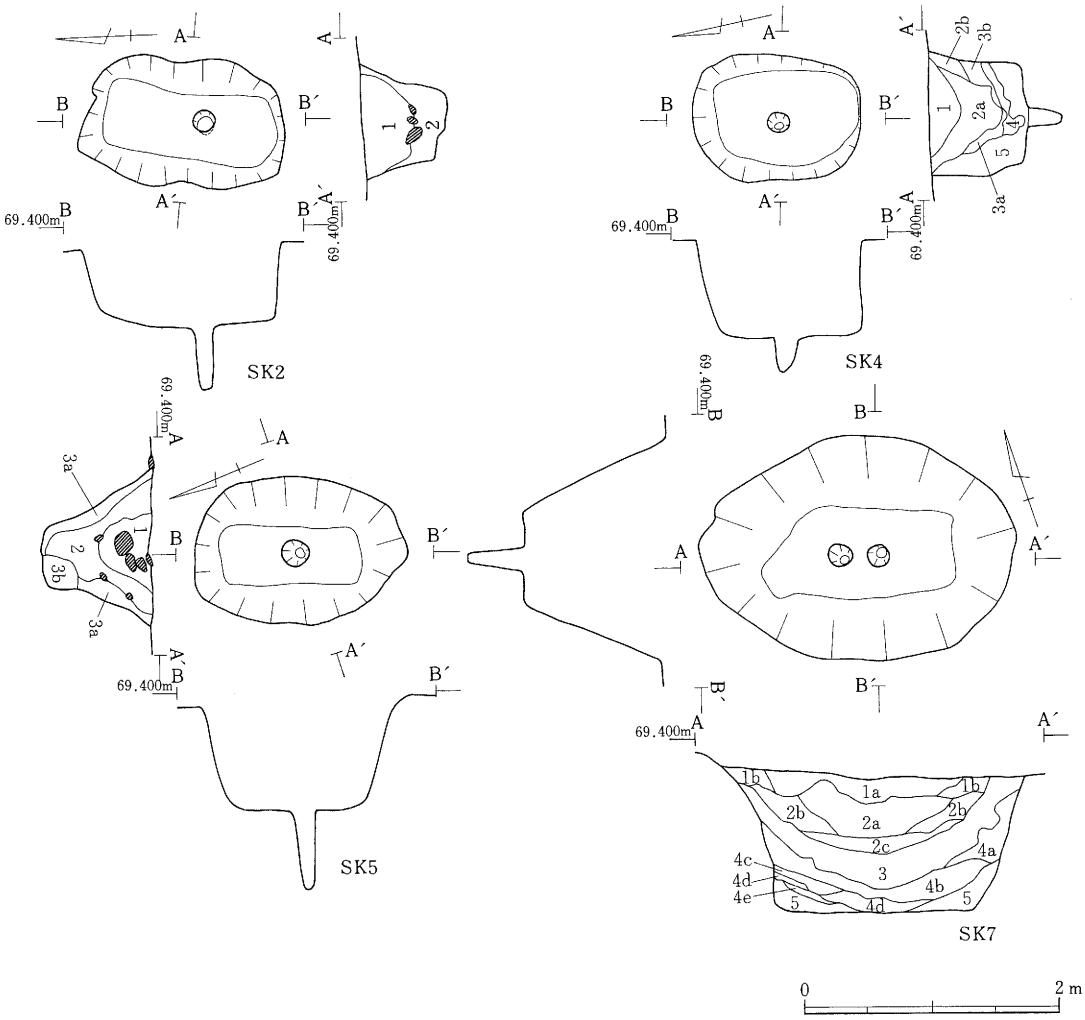
調査区西区に位置している。上端径 112 cm で、平面形はほぼ円形を呈している。深さは 69 cm、 底面は中央部がやや凹んでおり、壁は直角に立ち上がる。堆積土は 4 層で、人為的に土を被せていったような層相を呈している。底部に、炭化物が堆積しているところがあり、また、層中にも炭化物の堆積が見られる。 3 層中から人骨片が検出されているが、その遺存状態は極めて悪く細片である。その他に出土遺物はない。

ＳＫ８墓壙

調査区西区に位置している。上端長軸 194 cm、 短軸 123 cm で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 40 cm で、底面は平坦であり壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は 4 層で、人為的に土を被せていったような層相を呈している。底面東側に炭化物の集中したところがあり、寛永通宝 N-2-1～6（第16図9～14）が出土している。また、人骨片も出土しているが細片である。

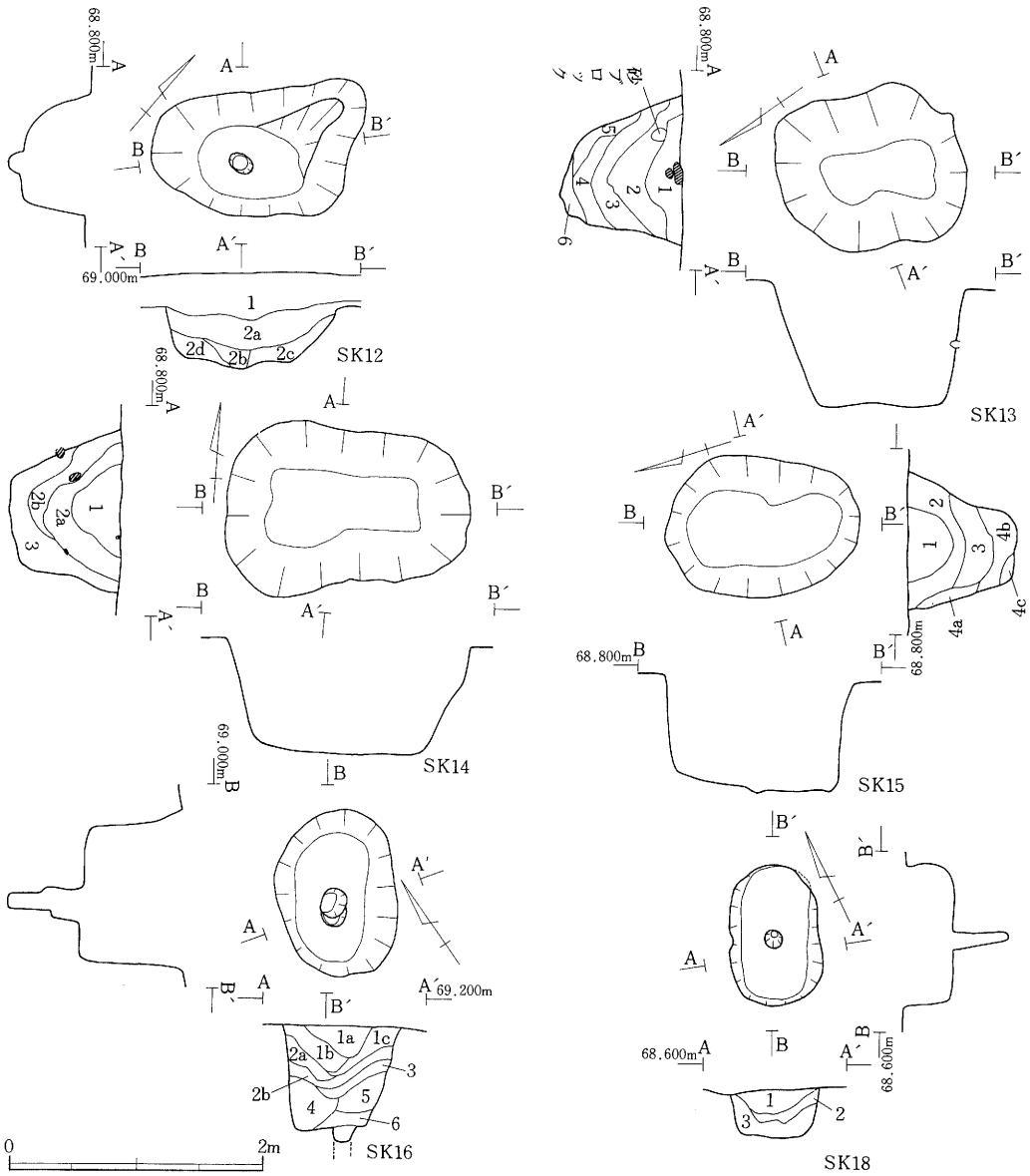
ＳＫ17墓壙

調査区北区に位置している。上端径 104 cm で平面形はほぼ円形を呈している。深さは 49 cm で、壁は開口部に向かってやや開いた形に立ち上がっている。堆積土は 3 層で、人為的に土を被せていったような層相を呈している。底面には、桶底板が遺存状態は良くないものもほぼ完形で残っていた。遺物は、人骨片、人歯、寛永通宝 N-1-1～6（第16図 3 ～ 8 ）、煙管 N-6（第



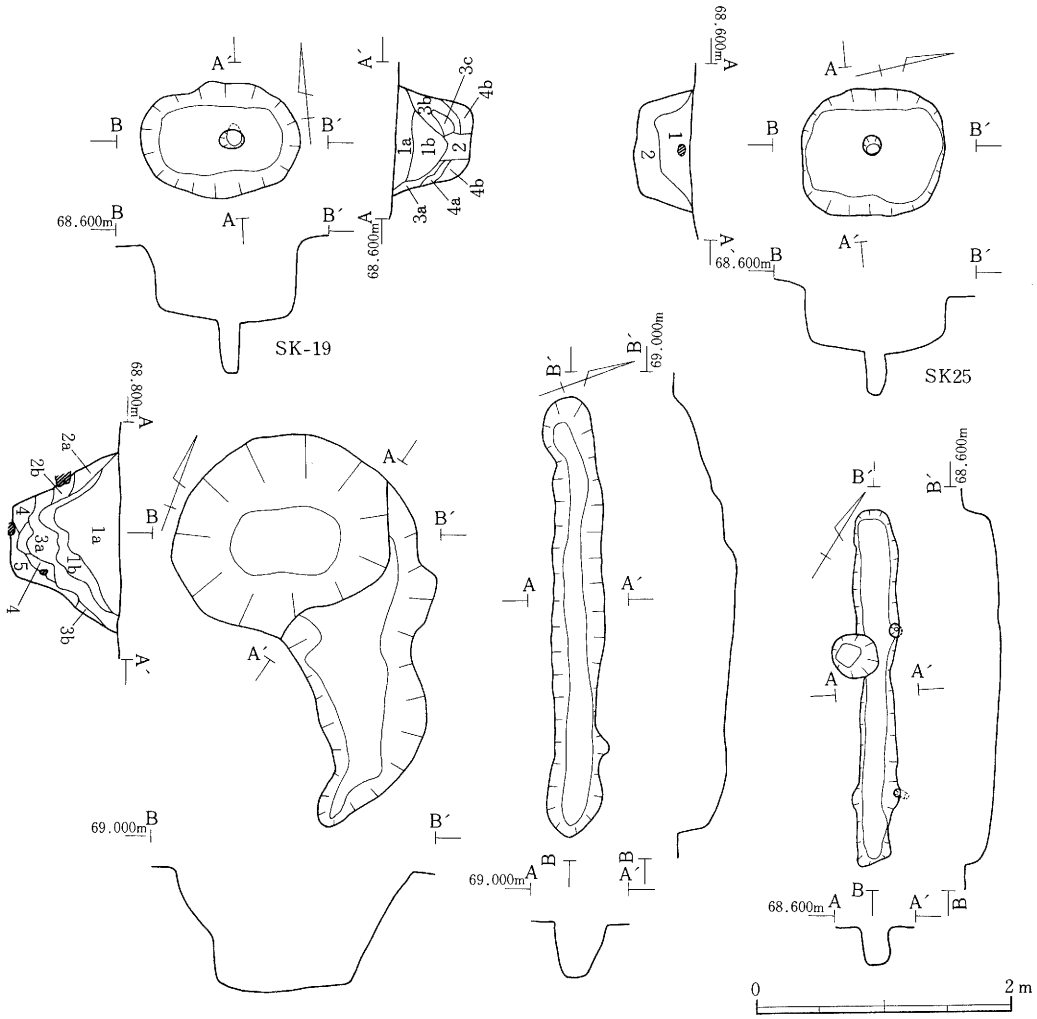
SK2	1	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト、小礫、
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR6/8明黄褐色シルト、酸化鉄
SK4	1	10YR3/3暗褐色	シルト	小礫
	2a	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	10YR5/8黄褐色シルト
	2b	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	上位の層より若干大きめの黄褐色粒
	3a	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト
	3b	10YR3/4暗褐色	シルト	小礫
	4	10YR2/3黒褐色	シルト	礫
	5	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	小礫
SK5	1	10YR3/3暗褐色	シルト	小礫、若干の炭化物
	2	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルト、小礫
	3a	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルト、小礫
	3b	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	礫
SK7	1a	10YR3/4暗褐色	シルト	小礫
	1b	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR2/1黒色粘土質シルト
	2a	10YR3/2黒褐色	シルト	小礫
	2b	10YR3/3暗褐色	シルト	小礫
	2c	10YR3/4暗褐色	シルト	小礫
	3	10YR2/2黒褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルト、10YR4/6褐色シルト
	4a	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルト
	4b	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色シルト、10YR1.7/1黒色粘土質シルト
	4c	10YR2/2黒褐色	シルト	10YR2/1黒色粘土、炭化物
	4d	10YR4/6褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色粘土質シルト、10YR6/6明黄褐色粘土
	4e	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルト
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	小礫

第7図　土坑平・断面図



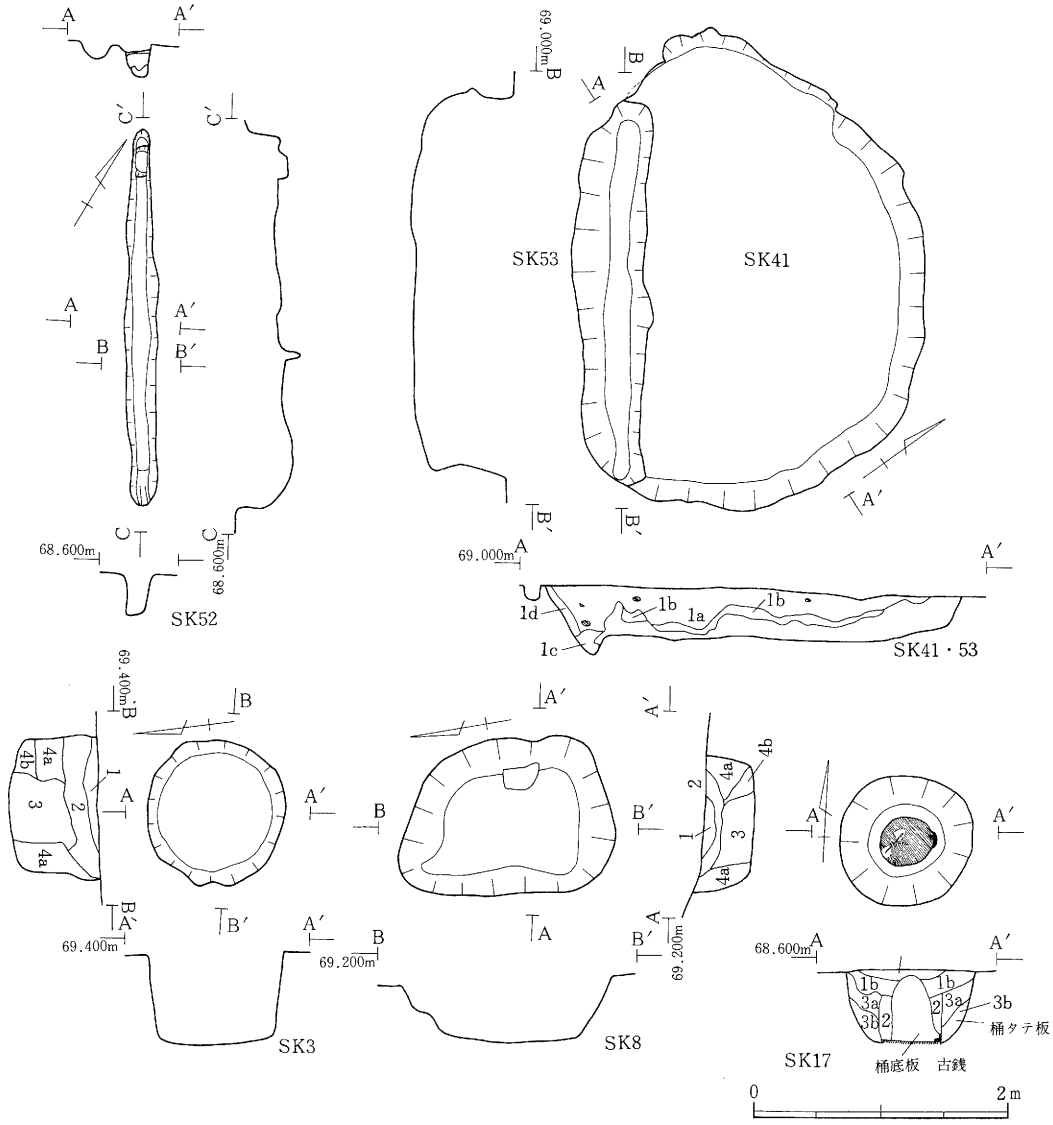
SK12	1	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、礫
	2a	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、小礫
	2b	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色シルト
	2c	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、小礫
	2d	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、小礫
SK13	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、礫
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、礫
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、礫
	4	10YR4/4褐色	砂質シルト	10YR3/3暗褐色シルト、礫
	5	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、酸化鉄
	6	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	10YR5/8黄褐色砂質シルト、礫
SK14	1	10YR2/3黒褐色	シルト	径1cm〜10cmの礫
	2a	10YR2/2黒褐色	シルト	上部に1mm以下の粒
	2b	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	
	3	10YR3/2黒褐色	細砂	もろい礫
SK15	1	10YR3/2黒褐色	シルト	礫
	2	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、小礫
	3	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR3/2黒褐色シルト、小礫
	4a	10YR3/6暗褐色	粘土質シルト	10YR2/3黒褐色シルト
	4b	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR2/3、 酸化鉄
	4c	10YR4/6褐色	粘土質シルト	酸化鉄
SK16	1a	10YR3/3暗褐色	シルト	礫
	1b	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR3/2黒褐色シルト、小礫
	1c	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルト、礫
	2a	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルト、礫
	2b	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、小礫
	3	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、小礫
	4	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、礫
	5	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルト、礫
	6	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、礫、酸化鉄
SK18	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR4/4褐色粘土質シルト、礫、赤褐色粒
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR3/4暗褐色シルト質粘土、10YR5/6黄褐色シルト質粘土
	3	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR3/4暗褐色粘土質シルト、酸化鉄

第8図　土坑平・断面図



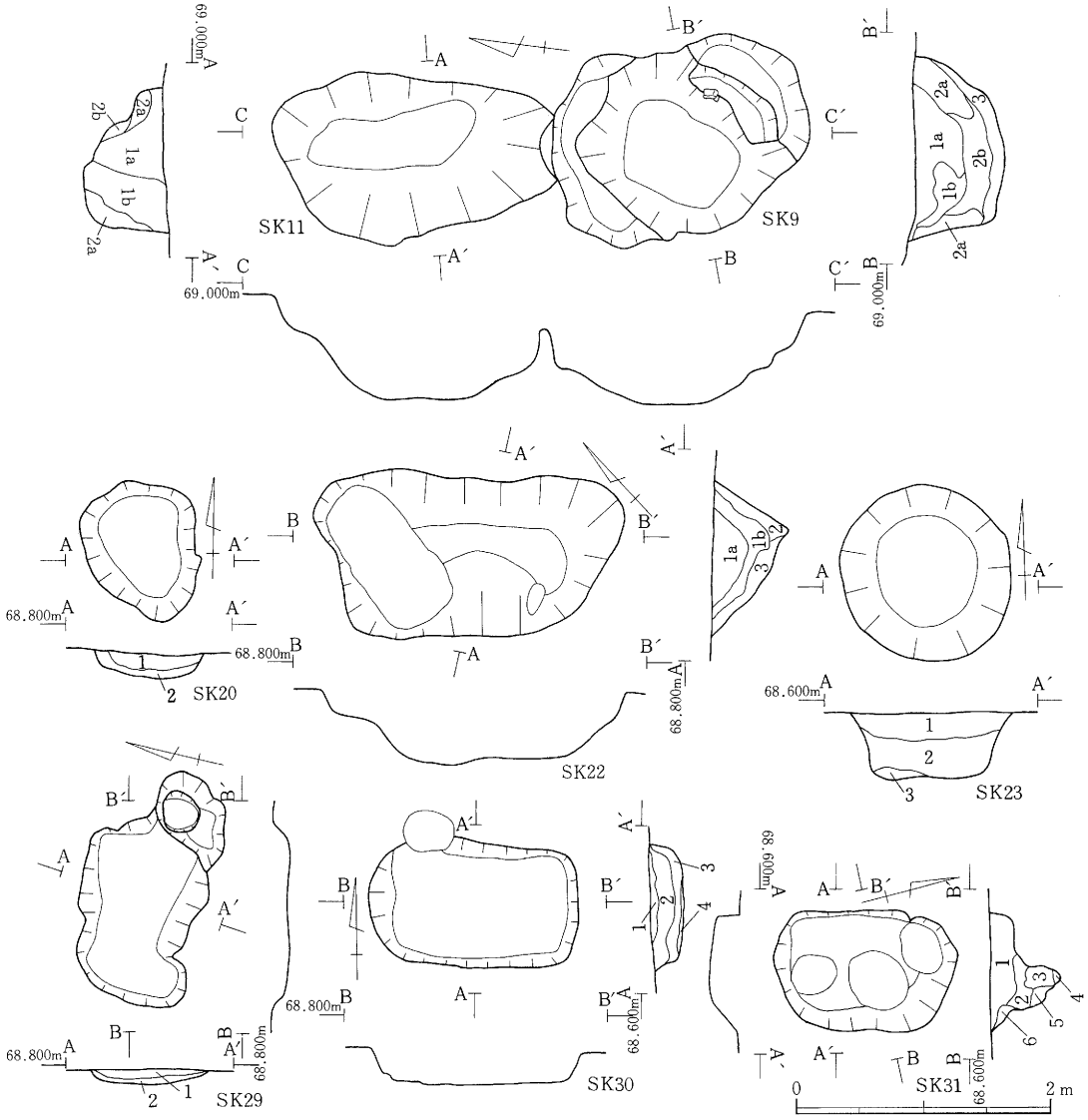
SK19	1a	10YR4/4褐色	シルト質粘土	礫、赤褐色粒
	1b	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土	10YR4/6褐色粘土質シルト、礫、赤褐色粒
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR5/6黄褐色粘土質シルト、礫
	3a	10YR4/6褐色	シルト質粘土	10YR5/6黄褐色シルト、炭化物
	3b	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色粘土質シルト、炭化物、酸化鉄
	3c	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/6明黄褐色粘土質シルト、炭化物
	4a	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR3/3暗褐色シルト、炭化物、礫
	4b	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色粘土質シルト、炭化物
SK25	1	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土	10YR4/4褐色シルト質粘土、礫、炭化物、赤褐色粒
	2	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	10YR5/6黄褐色シルト質粘土、炭化物、酸化鉄、赤褐色粒
SK40	1a	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、礫、炭化物
	1b	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト、小礫、炭化物
	2a	10YR4/6褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、酸化鉄、赤褐色粒
	2b	10YR6/6明黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3暗褐色シルト、酸化鉄、赤褐色粒、礫
	3a	10YR4/6褐色	粘土質シルト	10YR3/4暗褐色シルト、下部に10YR3/3暗褐色シルト
	3b	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR3/3暗褐色シルト、酸化鉄、小礫
	4	10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3暗褐色シルト、炭化物、赤褐色粒、小礫
	5	10YR4/6褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色シルト、小礫、酸化鉄、炭化物

第9図　土坑平・断面図



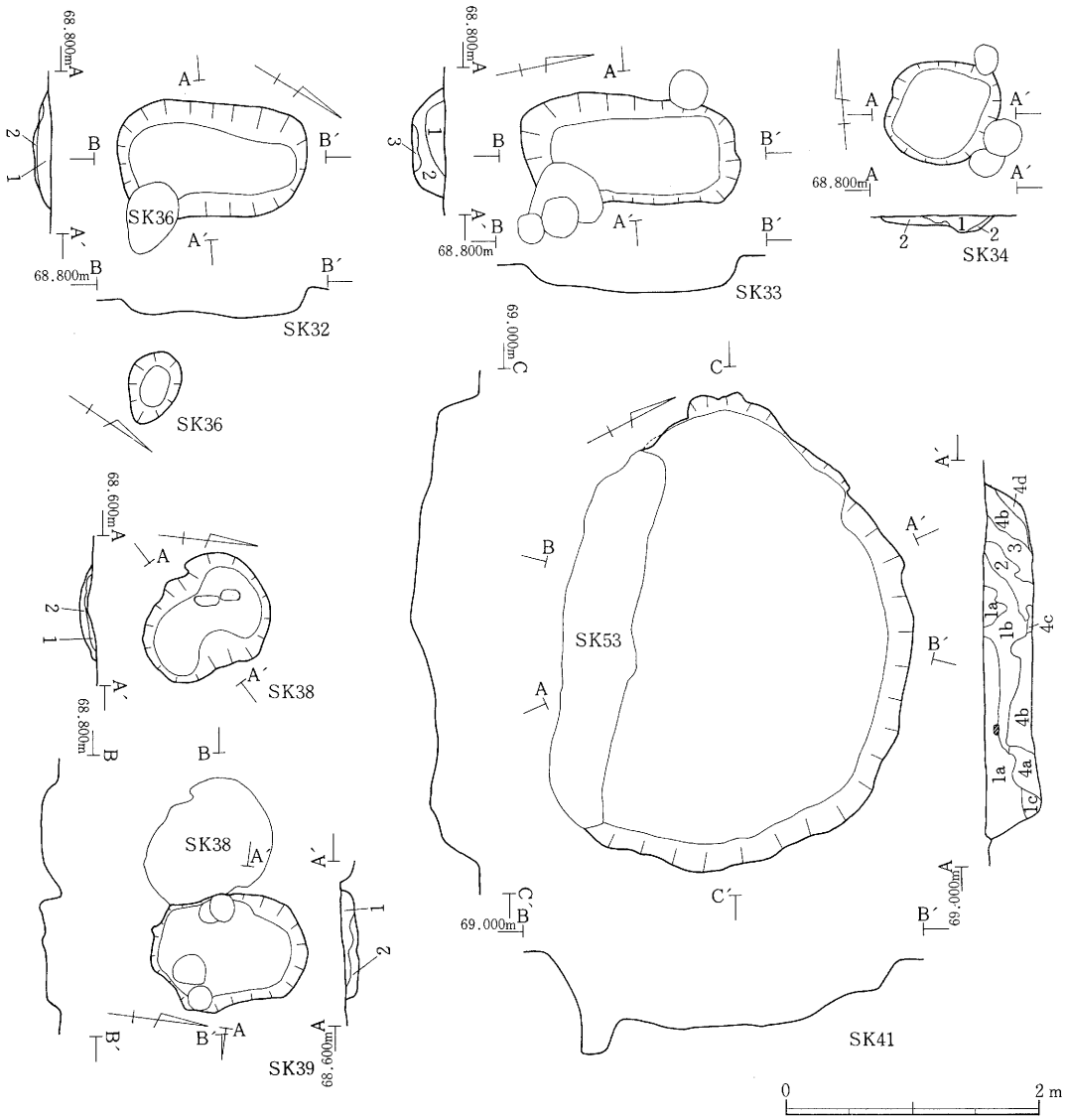
SK52	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘土質シルト、小礫
	2	10YR4/6褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルト、10YR2/3黒褐色シルト、小礫
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルト、小礫
SK3	1	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、10YR7/4にぶい黄橙色シルト
	2	7.5YR3/4暗褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルト、10YR7/3にぶい黄橙色粘土質シルト
	3	10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	10YR2/3黒褐色シルト、炭化物
	4a	10YR4/6褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルト、10YR7/6明黄褐色粘土質シルト
	4b	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒褐色粘土、炭化物
SK8	1	10YR2/2黒褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR2/3暗褐色シルト、酸化鉄
	3	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト、炭化物
	4a	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト
	4b	10YR3/3黒褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト
SK17	1a	10YR4/4褐色	シルト	10YR5/6黄褐色粘土質シルト、小礫
	1b	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色粘土質シルト、炭化物、小礫
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR6/6明黄褐色シルト質粘土、10YR2/3褐色シルト、人骨、歯、煙管、寛永通宝、桶板
	3a	10YR3/4暗褐色、10YR4/6褐色粘土質シルトの混合		小礫
	3b	10YR4/6褐色、10YR6/6明黄褐色粘土質シルトの混合		黒褐色粒、小礫

第10図　土坑平・断面図



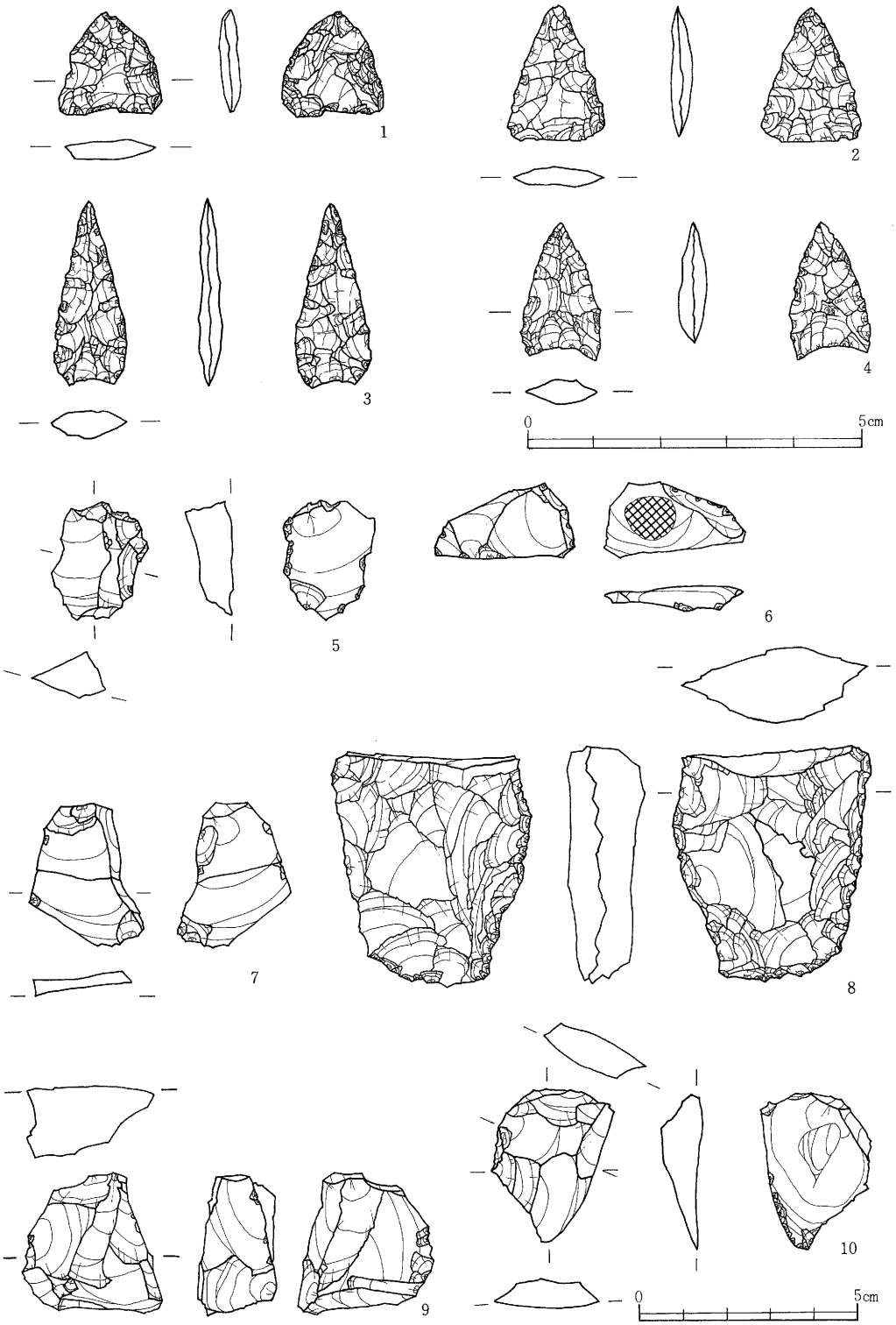
SK9	1a	10YR3/4暗褐色	シルト	小礫
	1b	10YR3/3暗褐色	シルト	小礫
	2a	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト、小礫
	2b	10YR2/2黒褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルト、小礫
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルト、小礫
SK11	1a	10YR3/1黒褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルト、炭化物、小礫
	1b	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト
	2a	10YR3/4暗褐色	シルト	小礫
	2b	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR2/2黒褐色粘土質シルト
SK20	1	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト、小礫
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	10YR3/4暗褐色シルト、炭化物、赤褐色粒、小礫
SK22	1a	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	礫、炭化物、赤褐色粒
	1b	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	10YR4/6褐色粘土質シルト、礫、炭化物
	2	10YR4/6褐色	粘土質シルト	10YR3/4暗褐色粘土質シルト、酸化鉄、炭化物
	3	10YR4/6褐色	粘土質シルト	10YR3/4暗褐色粘土質シルト、10YR6/4にぶい黄橙色シルト質粘土、酸化鉄、炭化物、赤褐色粒
SK23	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、酸化鉄、小礫
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土、酸化鉄
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト質粘土、酸化鉄
SK29	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルト、小礫
	2	10YR4/6褐色	シルト	10YR5/8黄褐色シルト、10YR3/4暗褐色シルト
SK30	1	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR4/6褐色シルト、小礫、炭化物
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR4/4褐色シルト、炭化物
	3	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物、小礫
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	小礫、酸化鉄
SK31	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/6黄褐色シルト、酸化鉄、炭化物、土坑の堆積土
	2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルト、ピットの堆積土
	3	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	10YR5/6黄褐色シルト、炭化物、ピットの堆積土
	4	10YR6/4にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR6/6明黄褐色シルト、炭化物、ピットの堆積土
	5	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色シルト、酸化鉄、炭化物、ピットの堆積土
	6	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルト、炭化物、礫、ピットの堆積土

第11図　土坑平・断面図

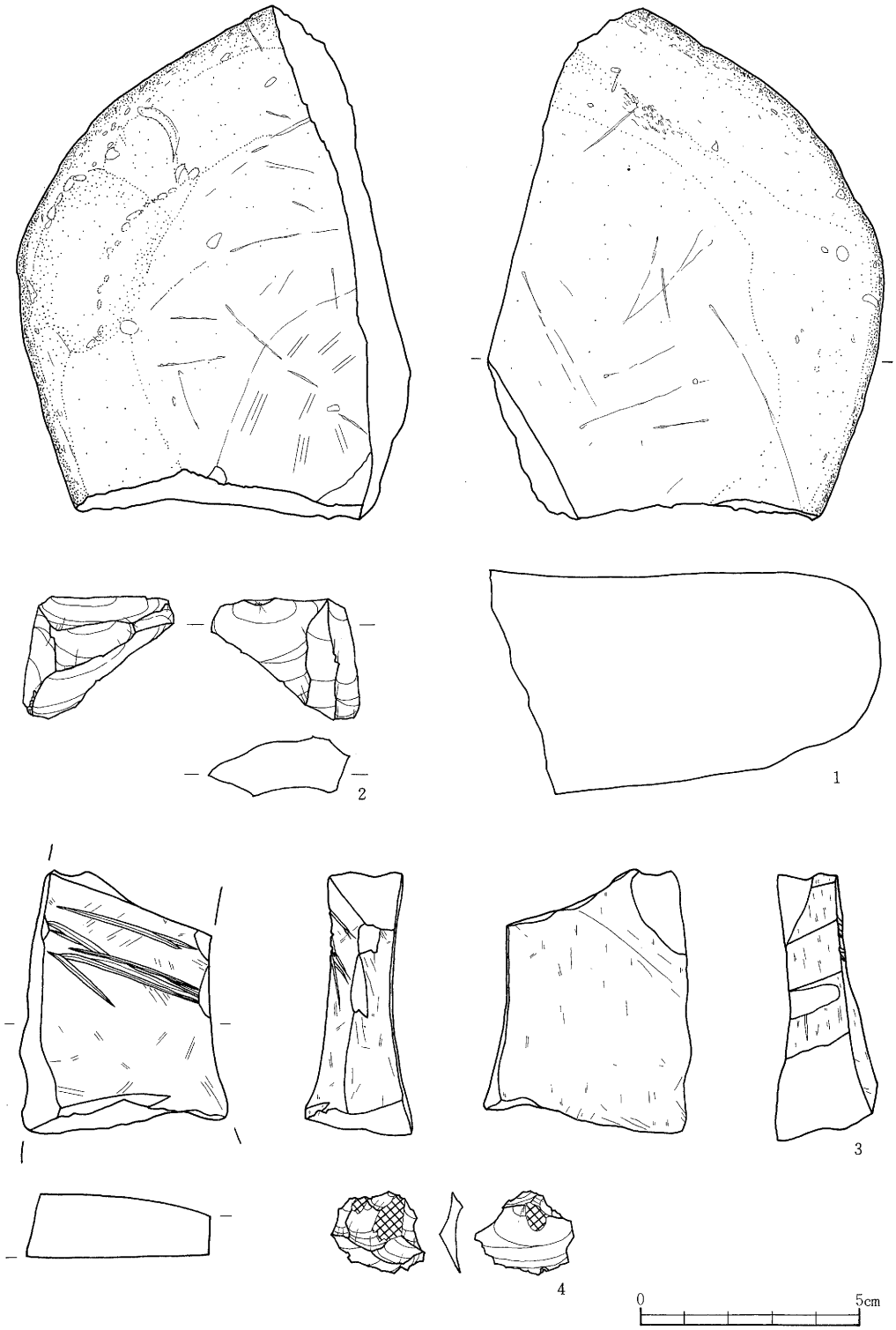


S K32	1	10Y R3/4暗褐色	シルト	10Y R4/6褐色シルト、礫、赤褐色粒
	2	10Y R4/6褐色	粘土質シルト	10Y R3/4暗褐色シルト、酸化鉄、赤褐色粒
S K33	1	10Y R3/3暗褐色	シルト	10Y R5/6黄褐色シルト、10Y R3/2黒褐色シルト、酸化鉄
	2	10Y R2/2黒褐色	シルト	10Y R5/6黄褐色シルト、酸化鉄、炭化物
	3	10Y R5/6黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄、礫
S K34	1	10Y R3/2黒褐色	シルト	10Y R5/6黄褐色シルト、酸化鉄、炭化物
	2	10Y R5/6黄褐色	シルト	10Y R3/2黒褐色シルト、酸化鉄
S K38	1	10Y R2/3黒褐色	シルト	10Y R5/3にぶい黄褐色粘土質シルト、炭化物、酸化鉄
	2	10Y R6/4にぶい黄橙色	粘土質シルト	10Y R3/2黒褐色シルト、酸化鉄
S K39	1	10Y R3/3暗褐色	シルト	10Y R4/6褐色シルト、小礫、酸化鉄
	2	10Y R5/6黄褐色	シルト	10Y R2/3黒褐色シルト、小礫
S K41	1 a	10Y R3/4暗褐色	シルト	小礫
	1 b	10Y R4/3にぶい黄褐色	シルト	10Y R2/3黒褐色シルト、炭化物
	1 c	10Y R2/3黒褐色	粘土質シルト	10Y R5/6黄褐色シルト
	1 d	10Y R6/4にぶい黄橙色	粘土質シルト	10Y R3/4暗褐色シルト、酸化鉄
	2	10Y R6/6明黄褐色	シルト	10Y R2/3黒褐色粘土質シルト、礫、炭化物
	3	10Y R2/3黒褐色	シルト	10Y R5/6黄褐色シルト、礫、炭化物
	4 a	10Y R5/6黄褐色	シルト	10Y R4/4褐色シルト、10Y R6/3にぶい黄橙色、小礫
	4 b	10Y R5/4にぶい黄褐色	シルト	10Y R4/6褐色粘土質シルト、10Y R2/3黒褐色シルト、10Y R6/4にぶい黄橙色シルト、炭化物
	4 c	10Y R5/4にぶい黄褐色	シルト	10Y R3/3暗褐色シルト、10Y R6/4にぶい黄橙色粘土質シルト、酸化鉄、炭化物
	4 d	10Y R4/4褐色	シルト	10Y R2/3黒褐色シルト、小礫、酸化鉄

第12図　土坑平・断面図



第13図　出土遺物実測図（石器）

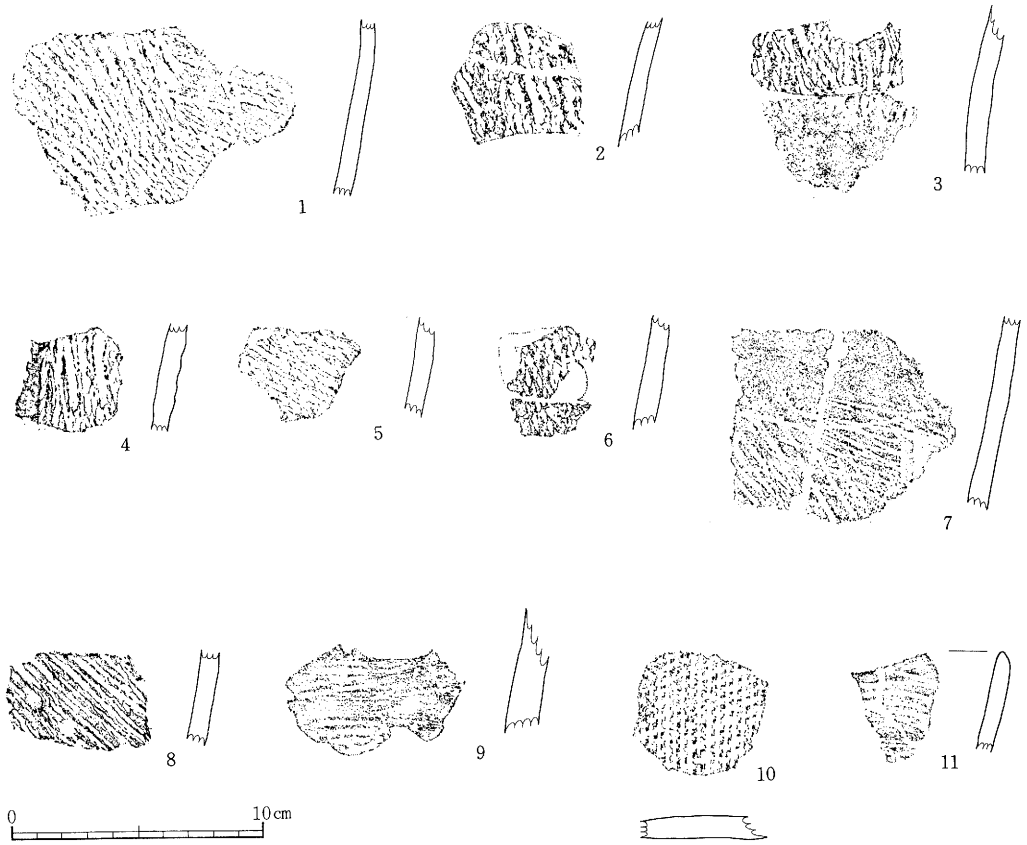


第14図　出土遺物実測図（石器）

石器属性表

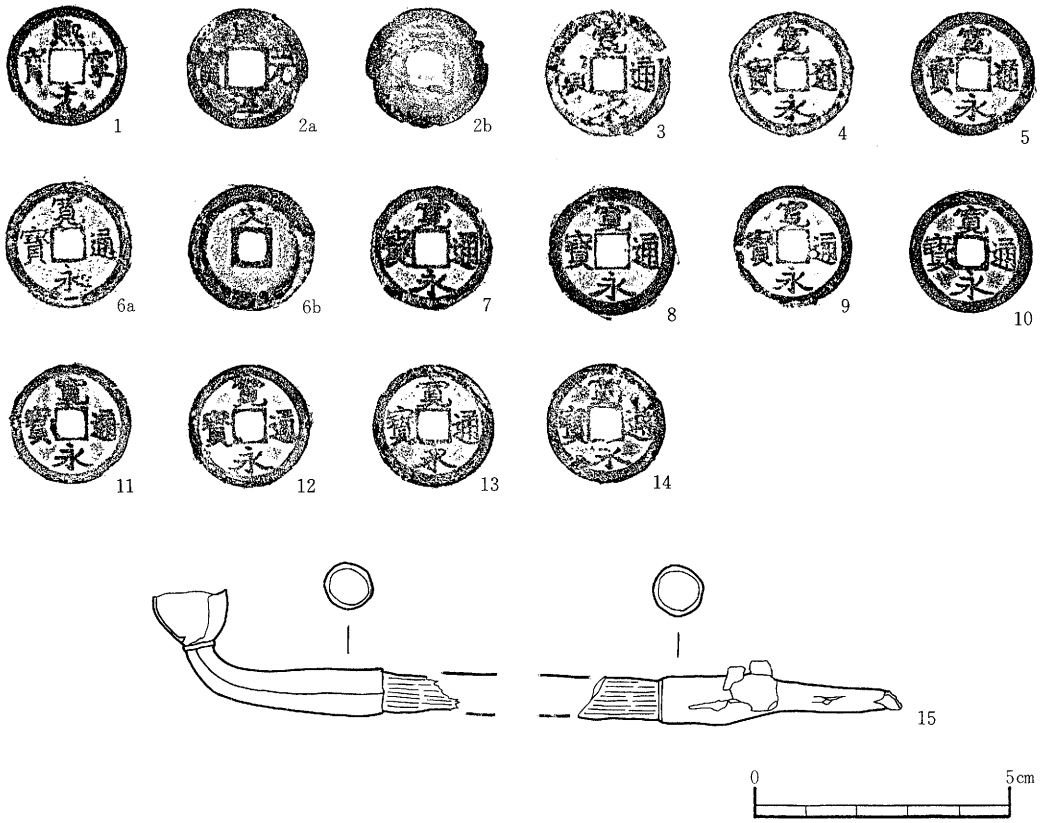
No.	図番号	遺構・層位	種別	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
K－2	13－5		二次加工のある剥片	26.6	22.6	11.8	5.0	玉髄		
K－3	13－1		石鏃	15.4	15.2	3.3	1.0	頁岩		凹基
K－4	13－2		石鏃	20.0	14.8	3.3	1.0	頁岩		平基
K－5	13－7		スクレイパー	25.1	23.0	6.0	3.0	けい質頁岩		
K－8	14－1	南区 SK－32		122.0	95.0	51.5	736.0	閃緑玢岩		
K－9	13－4	SK－21	石鏃		11.9	4.1	0.5	頁岩		凹基
K－10	13－3	SK－11	石鏃	27.4	11.4	4.0	1.0	頁岩（赤鉄こう）		凹基
K－12	13－8	南区 Pit 180	スクレイパー	60.5	45.9	17.6	40.5	頁岩		
K－14	14－2	南区 Pit 123	石核？	37.5	19.8	19.2	10.0	凝灰岩		
K－15	13－7	南区 Pit 81	二次加工のある剥片				1.5	不明		
K－17	13－7		〃	33.6	22.6	6.0	1.5	不明		
K－18	13－10	SK－7	二次加工のある剥片	34.7	27.4	9.6	7.0	玉髄		
K－21	13－9		石核？	33.4	30.0	17.5	16.5	玉髄		
K－37	13－6	南区 SK－33	石核？	26.6	17.6	6.0	2.5	頁岩		腹面に焼けはじけ有り
K－43	14－4	SK－4	剥片	18.0	21.7	3.1	1.0	頁岩		背・腹面の焼けはじけ有り
K－58	14－3		砥石	68.7	57.4	25.3	64.5	石英安山岩質凝灰岩		

◦剥片及び微細剥離痕については、剥片剥離軸を基準に長と幅を計測。
◦TooLについては最大長・最大幅で計測。



番　号	登録番号	種　別	器　形	出土遺構	層　位	外　面	内　面	備　考	写真図版
1	A－3	縄文土器		Ｐｉｔ456	埋土	ＬＲ縄文	ミガキ		40－6
2	A－4	縄文土器		Ｐｉｔ456	埋土	ＬＲ縄文	ミガキ		40－3
3	A－5	縄文土器		Ｐｉｔ456	埋土	ＬＲ縄文	ミガキ		40－2
4	A－7	縄文土器		Ｐｉｔ456	埋土	ＬＲ縄文	ミガキ		40－5
5	A－8	縄文土器		Ｐｉｔ456	埋土	ＬＲ縄文	ミガキ		40－4
6	A－9	縄文土器		Ｐｉｔ456	埋土	ＬＲ縄文	ミガキ		40－1
7	A－10	縄文土器			攪乱	Ｒ撚糸＋ＬＲ縄文	ミガキ		40－14
8	A－11	縄文土器			検出面	Ｒ撚糸	ミガキ		40－13
9	A－12	縄文土器		ＳＫ5	埋土	撚糸	不明		40－12
10	A－13	縄文土器			攪乱	編物圧痕	不明	底部のみ	40－11
11	A－14	縄文土器		ＳＫ32	埋土	Ｒ撚糸	ミガキ		40－10

第15図　縄文土器拓影



番号	登録番号	銭　名	出土遺構	層位	初鋳年［西暦］	時代	法量（cm）			裏　面	備　考	写真図版
							直径	中央穴の辺	縁幅			
1	N-3	熙寧元宝	pit437	埋土	1068年（北宋）	北宋	2.4	0.55	0.2			40－31
2	N-4	咸淳元宝	SK47	埋土	1265年（南宋）	南宋	2.45	0.6	0.25	二（？）		40－30
3	N-1-1	寛永通宝	SK17	底面	1626年～1656年	江戸	2.5	0.55	0.25		古寛永	40－18
4	N-1-2	寛永通宝	SK17	底面	1626年～1656年	江戸	2.45	0.55	0.25		古寛永	40－19
5	N-1-3	寛永通宝	SK17	底面	竹田銭　寛永14年〔1637年〕	江戸	2.45	0.5	0.25		古寛永	40－20
6	N-1-4	寛永通宝	SK17	底面	正字入文　寛文2年〔1668年〕	江戸	2.5	0.55	0.25	文	新寛永	40－21
7	N-1-5	寛永通宝	SK17	底面	沓谷銭　明暦2年〔1656年〕	江戸	2.45	0.6	0.25		古寛永	40－22
8	N-1-6	寛永通宝	SK17	底面	沓谷銭　明暦2年〔1656年〕	江戸	2.5	0.6	0.3		古寛永	40－23
9	N-2-1	寛永通宝	SK8	底面	岡山銭　寛永14年〔1637年〕	江戸	2.4	0.55	0.25		古寛永	40－24
10	N-2-2	寛永通宝	SK8	底面	高田銭　寛永14年〔1637年〕	江戸	2.45	0.5	0.27		古寛永	40－25
11	N-2-3	寛永通宝	SK8	底面	高田銭　寛永14年〔1637年〕	江戸	2.4	0.5	0.25		古寛永	40－26
12	N-2-4	寛永通宝	SK8	底面	仙台銭　寛永14年〔1637年〕	江戸	2.45	0.55	0.25		古寛永	40－27
13	N-2-5	寛永通宝	SK8	底面	高田銭　寛永14年〔1637年〕	江戸	2.45	0.5	0.3		古寛永	40－28
14	N-2-6	寛永通宝	SK8	底面	1626年～1656年	江戸	2.4	0.5	0.25		古寛永	40－29

番号	登録番号	種　別	出土遺構	層位	雁首	吸い口	材　質	備　考	写真図版
					長さ×幅	長さ×幅			
15	N-6	キセル	SK17	底面	4.5×0.9	4.9×1.0	銅		40－17

第16図　金属製品拓影・実測図

16図15）が出土している。

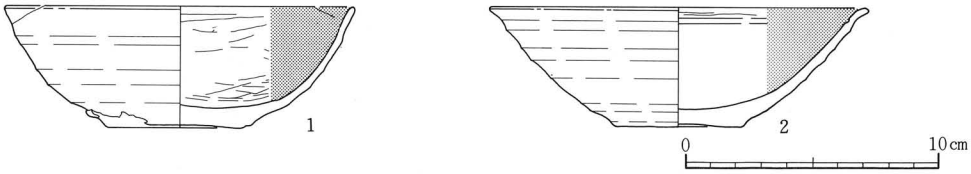
5．その他の遺構

SX26 性格不明焼土遺構　長軸 50 cm、短軸 28 cm の不整形で全体に焼土が広がっている。内外面ロクロナデ調整の土師器 D-5 甕が出土している。

その他、ピット・小柱穴が489検出され、65のピット・小柱穴から縄文土器片、土師器片、須恵器片、陶磁器片、焼けた石、炭化物が出土している。その内 No. 400 の底面より土師器 D-4 甕が、No. 456 より縄文土器 A-1～9 が出土している。

基本層位のII層中からは縄文土器片、土師器 D-3 坏（第17図１）を含む土師器片、須恵器甕片、陶器片が出土している。遺構検出面からは調査区北区では土師器 D-2 坏（第17図２）と土師器甕片、調査区南区からは縄文土器片、土師器片、南拡張区からは縄文土器片、土師器片、が出土している。土師器 D-2・D-3 坏は外面ロクロナデ調整、内面ヘラミガキ調整で黒色処理が施されている。

攪乱、表土から縄文土器片、土師器坏片、須恵器片、陶磁器片、瓦片が出土している。



出土土器観察表

番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面			内面	備考	写真図版
						口縁部	体部	底部			
1	D－3	土師器（ロクロ）	坏		II層	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ヘラミガキ→黒色処理		40－16
2	D－2	土師器（ロクロ）	坏	検出面		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	ヘラミガキ→黒色処理		40－15

第17図　出土遺物実測図（土師器）

Ⅶ　ま　と　め

1．掘立柱建物跡・塀跡

掘立柱穴は小ピットも含めると全体で489検出されたが、西区には殆どみられず、大半は北南区にあるが、特に南区の調査区南東隅寄りの一画に集中して検出された。柱穴は直径15～40 cmの円形で、特に25～30 cmが特に多く、柱痕跡は全てに認められなかったが、検出し得るものは直径10～15 cm程で小形の掘立柱である。これらの柱穴は一部重複するものもあるが、柱穴埋土等も殆ど差異が認められず、また、建物の規模も小さく柱間寸法も不揃いであることなどから全ての建物の認定及び変遷を把握することができなかった。ここでは柱穴規模・埋土・柱列方向等の検討により30棟の建物跡が認定された。これらの建物は方向により次の6群に大別することができる。

［第1群］　7棟　N－3～8°－E

SB54	3間	(13.7m)×2間	(4.4m)	3°	SB57	4間	(6.8m)×2間	(3.9m)	6°
SB64	3	(7.3m)×1	(3.6m)	8°	SB65	3	(6.5m)×2	(2.8m)	4°
SB66	2	(3.9m)×1	(2.6m)	6°	SB73	3	(6.1m)×2	(5.0m)	6°
SB83	2	(6.6m)×1	(2.8m)	6°					

［第2群］　4棟　N－10～13°－E

SB56	1間	(4.0m)×1間	(2.0m)	10°	SB68	1間	(2.6m)×1間	(2.1m)	12°
SB69	1	(2.8m)×1	(2.1m)	13°	SB72	3	(5.5m)×2	(3.7m)	13°

［第3群］　6棟　N－19～22°－E

SB55	2間	(6.0m)×1間	(3.2m)	19°	SB60	2間	(4.3m)×1間	(2.4m)	19°
SB75	3	(6.6m)×1	(4.0m)	19°	SB76	3	(6.3m)×1	(3.8m)	22°
SB78	1	(4.3m)×1	(2.6m)	19°	SB79	1	(4.2m)×2	(4.0m)	19°

［第4群］　6棟　N－26～32°－E

SB61	2間	(5.3m)×2間	(3.7m)	26°	SB63	2間	(3.6m)×1間	(2.3m)	32°
SB67	3～	(6.5m)×2	(3.2m)	29°	SB80	2	(4.8m)×1	(2.2m)	30°
SB81	3	(5.8m)×2	(2.2m)	30°	SB82	1	(4.2m)×1	(2.8m)	30°

［第5群］　4棟　N－9～10°－W

SB58	2間	(4.0m)×1間	(2.7m)	10°	SB62	2間	(5.2m)×1間	(2.5m)	10°
SB70	3	(5.1m)×1	(3.2m)	9°	SB77	1	(4.8m)×2	(4.5m)	9°

［第6群］　3棟　N－45°～　－E

SB59	2間	(4.0m)×2間	(4.0m)	62°	SB71	2間	(4.4m)×1間	(3.2m)	45°
SB74	3	(5.2m)×1	(4.2m)	60°					

これらの建物の方向性により群として大別したが同群の建物が同一時期に建てられていたものと断定し得ない。しかし、少なくても6期にわたる建て替え変遷があったものとみられよう。さらに同一群内でも重複関係が認められることから、同群内の建物が全て同一時期に並存し得ず、さらに多くの時期変遷も推定されよう。いずれにしろ、かなり長期間にわたって、小規模な建物が繰り返して建てられていたものと考えられる。

一棟ごとの建物規模をみれば、柱間は桁で1～4間、総長もSB54の13.7mを除けば、3～7m、梁で1～2間、総長も2～4.5mといずれも短く、小規模なものが殆どである。しかし、限られた範囲に柱穴が集中し、重複が著しいことから、今回は方形規模の建物しか復元し得なかったが、間仕切りや張出し等の複雑な配置構造をもつ建物もあったものと考えられる。

各建物群の年代は出土遺物等がないことから断定し得ないが、柱穴規模や不揃いな柱間寸法からみて、中世以前に遡ることはないものと考えられ、また調査区内で近世の墓壙が数基発見されており、本調査区内で、中世の遺構・遺物が皆無であることから、近世の建物群と見ておきたい。

2．土　坑

今回の調査では48基の土坑が検出されている。しかし、これらの土坑は後世において削平をうけているので検出面での上端の平面形の深さからだけではその性格などを判断することは難しい。また、時期を推定するような出土遺物もなかった。ここでは、下端の平面形や底部に見られるピットなどのデータにより次のような考察を行った。

土坑の下端長幅をみれば、短軸に対して長軸が非常に長い群とそうでない群との2つのまとまりがみられる。(第19図①)。次に後者の群に対して、検出面からの深さをみると30cmを境とする2つのまとまりがみられる。(第19図②)。これらのことから、次の3つの分類が考えられる。

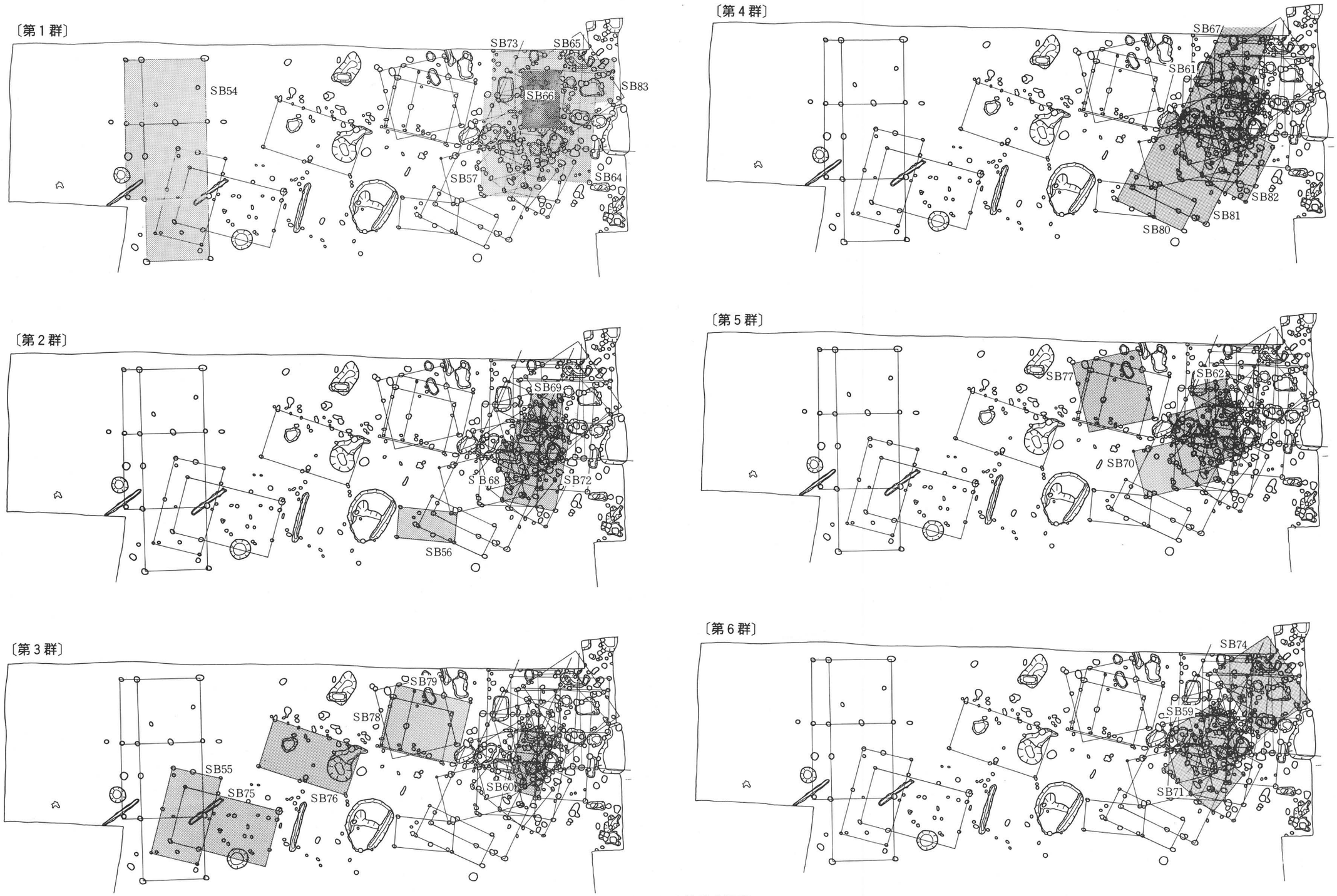
Ⅰ群＝長幅の比が大きく開くもの

Ⅱ群＝長幅の比があまり開かず、深さが30cm以上のもの

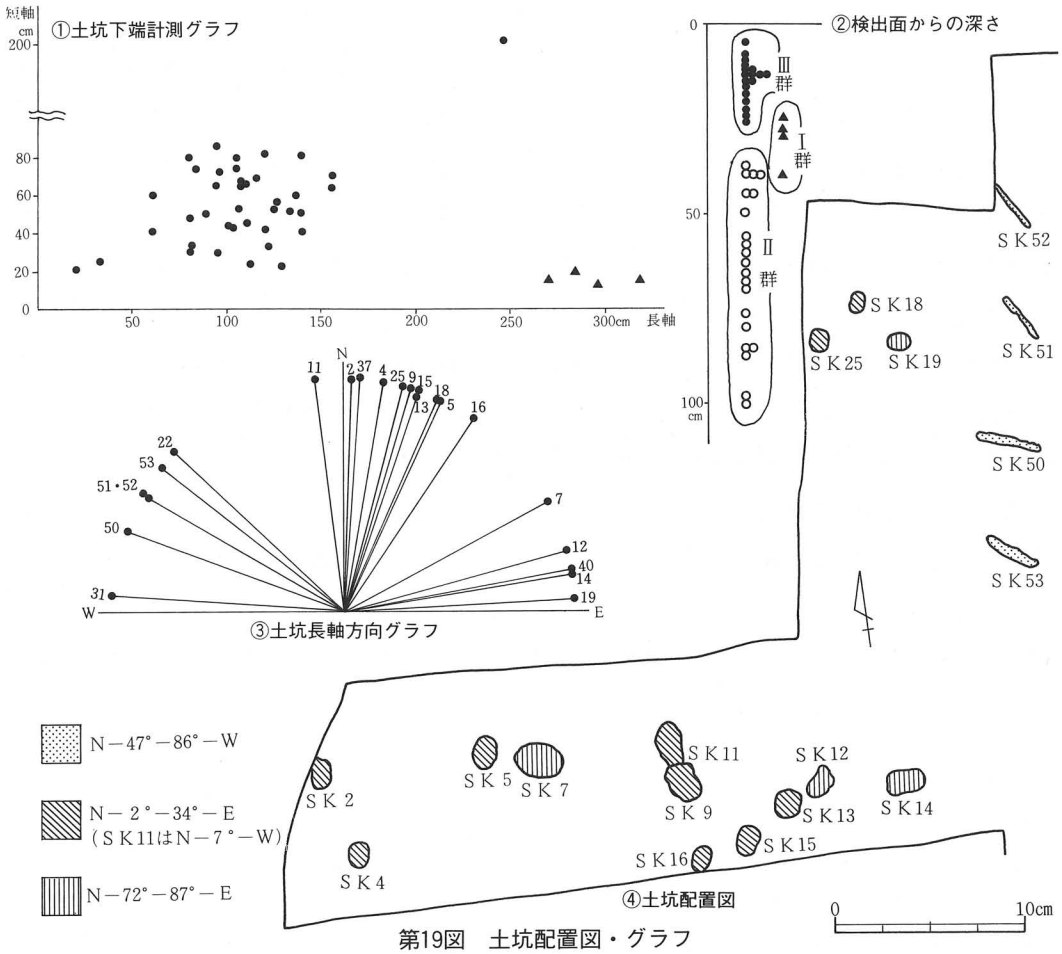
Ⅲ群＝長幅の比があまり開かず、深さが30cm以下のもの

Ⅰ群とⅡ群には、底面に1～2個のピットを持つものがみられる。Ⅲ群にはピット等の底面施設をもつものはみられない。また、Ⅲ群に分類される土坑は南区に集中する傾向がみられ、深さも浅く形も不整形なものが多いことからⅠ・Ⅱ群とは分けて考えることができる。

このⅠ・Ⅱ群に分類される土坑は、従来「陥し穴状遺構」、「落し穴」と呼ばれてきた土坑と形態・底面施設等類似する点が多い。Ⅰ群に分類される土坑は、平面形が溝状を呈する土坑で、断面形は壁がほぼ垂直に立ち上がる。この形態を呈する土坑は、北海道・青森・岩手などでま



第18図 掘立柱建物跡分類図



第19図　土坑配置図・グラフ

土坑番号	下端(cm) 長軸	下端(cm) 短軸	深さ(cm)	平面形	ピット数	長軸の傾き	分類番号	土坑番号	下端(cm) 長軸	下端(cm) 短軸	深さ(cm)	平面形	ピット数	長軸の傾き	分類番号
SK 1	20	20	13	円形			3群	SK29	124	51	11	不整形			3群
SK 2	138	50	66	隅丸長方形	1	N－ 2°－E	2群	SK30	138	80	26	隅丸長方形			3群
SK 4	115	68	76	楕円形	1	N－10°－E	2群	SK31	104	74	56	楕円形		N－86°－W	2群
SK 5	110	45	86	隅丸長方形	1	N－25°－E	2群	SK32	132	52	14	楕円形			3群
SK 6	112	23		楕円形			3群	SK33	136	60	25	隅丸長方形			3群
SK 7	154	70	100	隅丸長方形	2	N－72°－E	2群	SK34	60	60	14	円形			3群
SK 9	94	66	70	楕円形		N－17°－E	2群	SK35	110	66	16	不整形			3群
SK10								SK36	33	22	13	楕円形			3群
SK11	140	40	63	楕円形		N－ 7°－W	2群	SK37	120	82	40	不整形		N－ 4°－E	2群
SK12	80	48	76	楕円形	1	N－75°－E	2群	SK38	94	30	9	不整形			3群
SK13	81	34	98	楕円形		N－19°－E	2群	SK39	106	68	14	楕円形			3群
SK14	120	43	86	隅丸長方形		N－81°－E	2群	SK40	88	50	87	隅丸長方形		N－80°－E	2群
SK15	126	57	86	不整形		N－19°－E	2群	SK41	245	202	40	楕円形			2群
SK16	102	43	80	楕円形	1	N－34°－E	2群	SK42	154	64	10	不整形			3群
SK18	106	52	38	隅丸長方形	1	N－24°－E	2群	SK43							
SK19	96	51	60	隅丸長方形	1	N－87°－E	2群	SK44							
SK20	82	54	19	楕円形			3群	SK45							
SK21								SK46	121	34	17	隅丸長方形			3群
SK22	128	22	59	不整形		N－47°－E	2群	SK47	60	40	21	不整形			3群
SK23	80	80	50	円形			2群	SK49	80	30	14	隅丸長方形			3群
SK24	94	86	16	方形			3群	SK50	318	16	40	長楕円形		N－70°－W	1群
SK25	108	66	45	隅丸長方形	1	N－15°－E	2群	SK51	270	16	30	長楕円形		N－60°－W	1群
SK27	100	44	5	楕円形			3群	SK52	296	13	25	長楕円形	1	N－60°－W	1群
SK28								SK53	284	20	29	長楕円形		N－52°－W	1群

第１表　土坑分類表

とまった数の検出例が報告されている。仙台市でも、茂庭けんとう城・上ノ原山遺跡で検出例が報告されている。II群に分類される土坑は平面形が隅丸長方形、楕円形を呈する土坑で、断面形は逆台形を呈するものが多く各地で検出例が報告されている。仙台市では前出の2遺跡の他、山田上ノ台遺跡・沼原A遺跡・嶺山A・B遺跡・下ノ内浦遺跡で検出例が報告されている。次にI・II群の土坑の長軸の報告をみると3つのまとまりがみられる（第19図③）。これの配置関係をみると、一定の間隔で並んでいると考えられるものがある。旧地形がどのようであったかは不明であるが南西80 mのところに岩の川があり、それに向かうけもの道や等高線の傾きを意識した配列がなされていた可能性が考えられる（第19図④）。また、I・II群の土坑のなかには、底面にピットを1～2基有しているのがあり、その深さも40 cm前後で杭などを打ち込んだか、あるいは埋め込んで底部施設としていたと考えることが可能である。

これらのことをまとめると、I・II群に分類できる土坑は堆積状況がいずれも自然堆積を示すこと、底面に何らかの施設を伴ったと考えられるものがあること、意図的に配列された可能性が考えられことなどの点から、今回検出された土坑のうちI・II群に分類される土坑は、従来言われて来た「落し穴」と同様の遺構であるとみておきたい。(SK41は堆積状況などから倒木痕と考えられるので除いてある)

参考文献

1973　「霧ケ丘」霧ケ丘遺跡調査団

1977　「札幌市文化財調査報告書XIV-S267、268遺跡」札幌市教育委員会

1981　「発茶沢遺跡」青森県教育委員会

1981　「岩手県埋蔵文化センター紀要I」(財)岩手県埋蔵文化財センター

1981～85　「多摩ニュータウン遺跡」第1～7分冊(財)東京都埋蔵文化財センター

1981　「山田上ノ台遺跡」仙台市教育委員会

1982　「札幌市文化財調査報告書XXIII」札幌市教育委員会

1982　「東北新幹線関連遺跡発掘調査報告V　鳴神・柿内戸遺跡」福島県教育委員会

1982　「神谷原II」八王子捫田遺跡調査会

1983　「茂庭」仙台市教育委員会

1983　「季刊考古学」創刊号　雄山閣

1983　「縄文文化の研究」雄山閣

1985　「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報IV」仙台市教育委員会

1987　「田面木平遺跡（I）」八戸市教育委員会

1987　「七ケ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書III　小梁川遺跡」宮城県教育委員会

1988　「東北横断自動車道遺跡調査報告3　登戸遺跡」福島県教育委員会

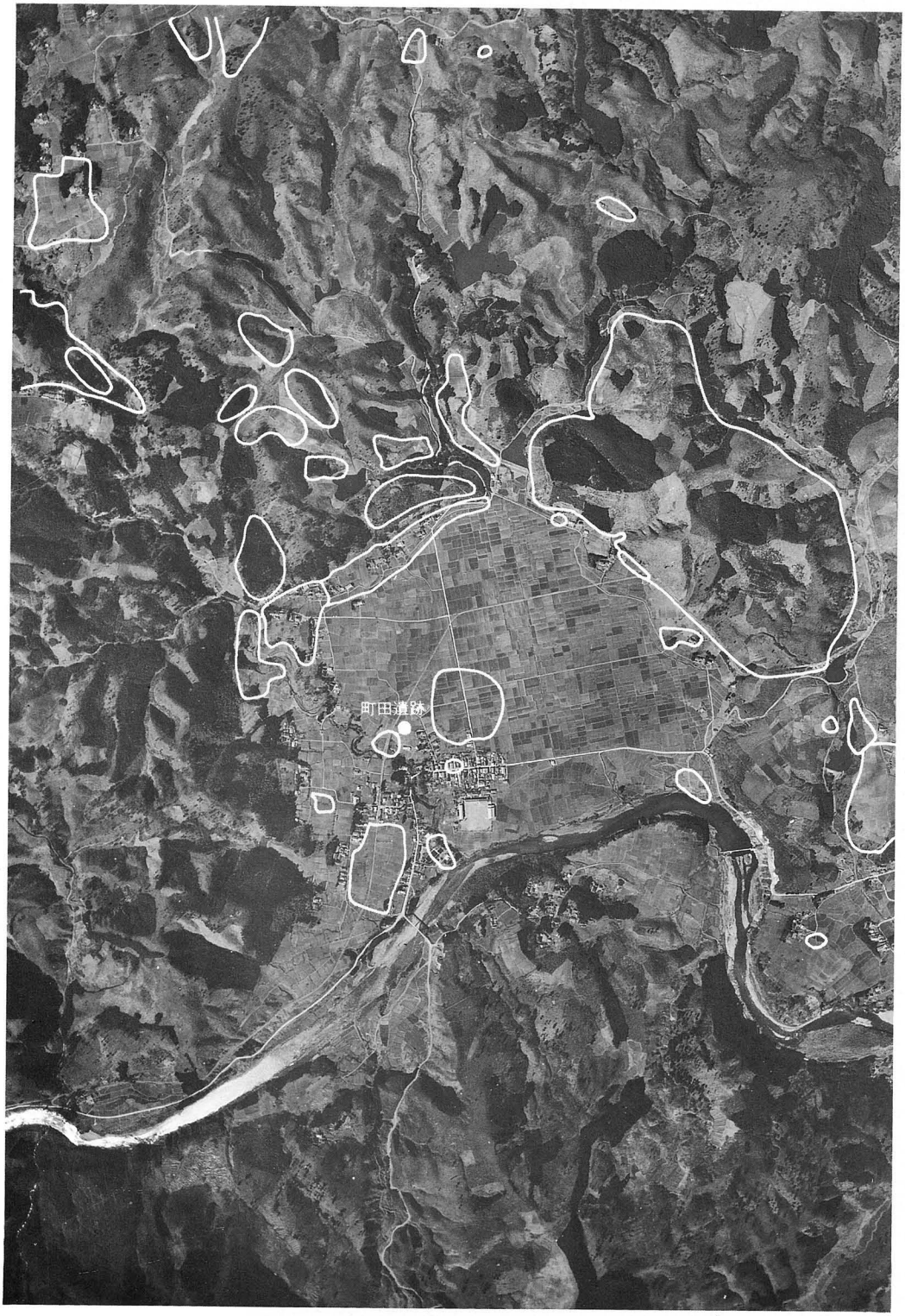
1988　「日本の考古学」雄山閣

1988　「論争・学説日本の考古学第2巻先土器・縄文時代I」雄山閣

1989　「茂庭けんとう城」仙台市教育委員会

1990　「下ノ内浦遺跡」仙台市教育委員会

写　真　図　版



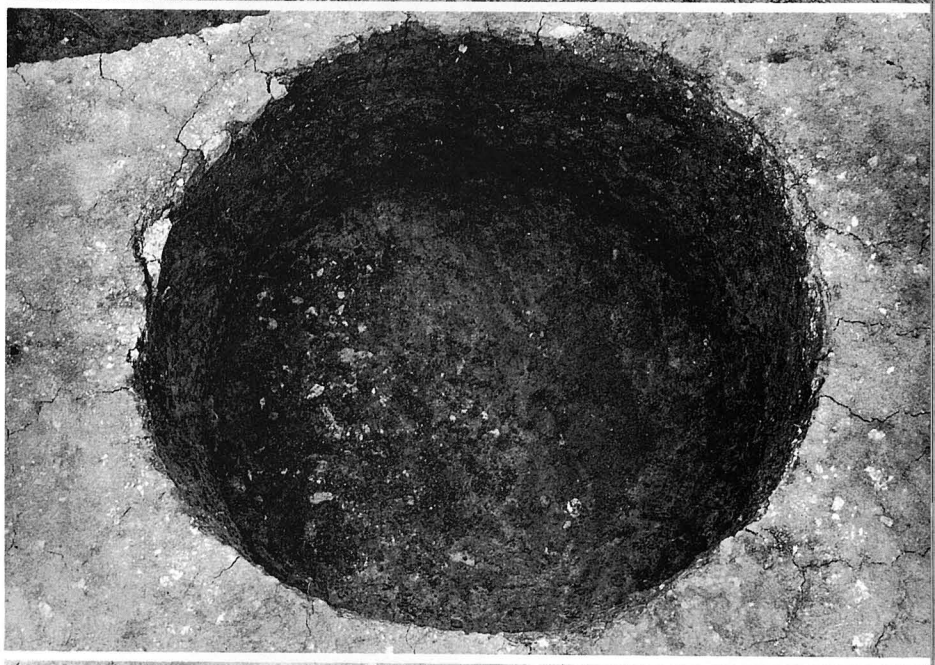
図版１　町田遺跡航空写真（昭和31年撮影）

図版 2
遺跡遠景（太白山より）

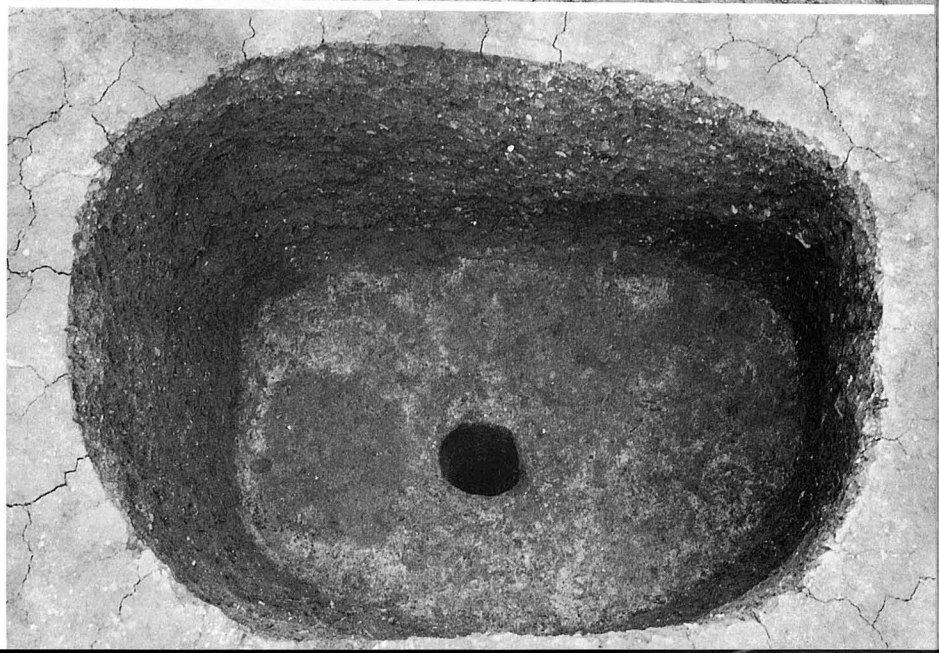
図版 3
調査区全景（南東より）

図版 4
ＳＩ48竪穴建物跡
土層断面（西より）

図版５
ＳＩ48竪穴建物跡全景
（南より）



図版６
ＳＫ３墓壙（南より）



図版７
ＳＫ４土坑（東より）

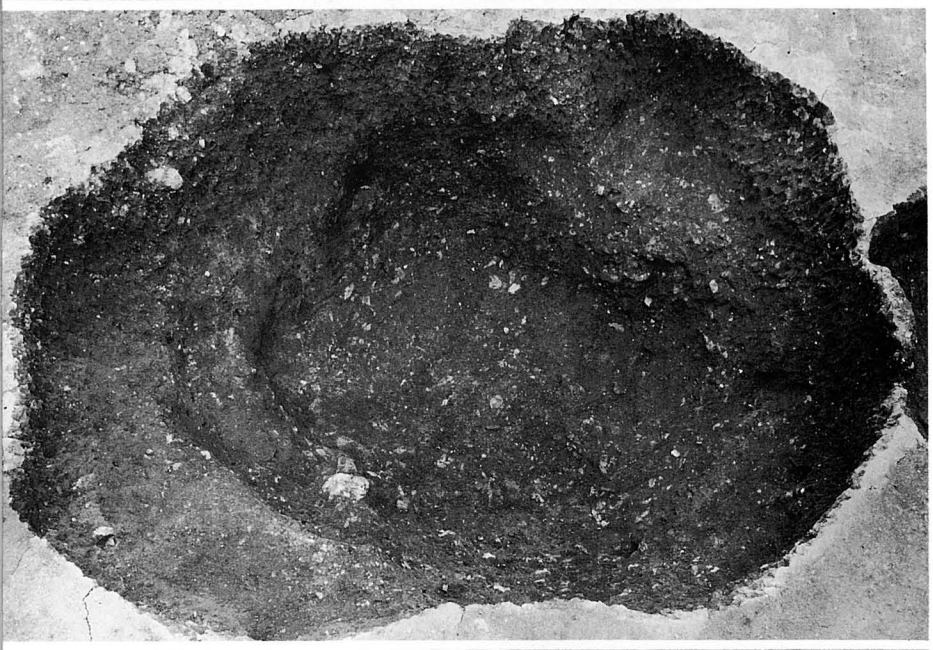
図版８
ＳＫ２土坑（南より）

図版９
ＳＫ２土坑土層断面
（南より）

図版10
ＳＫ５土坑（南より）

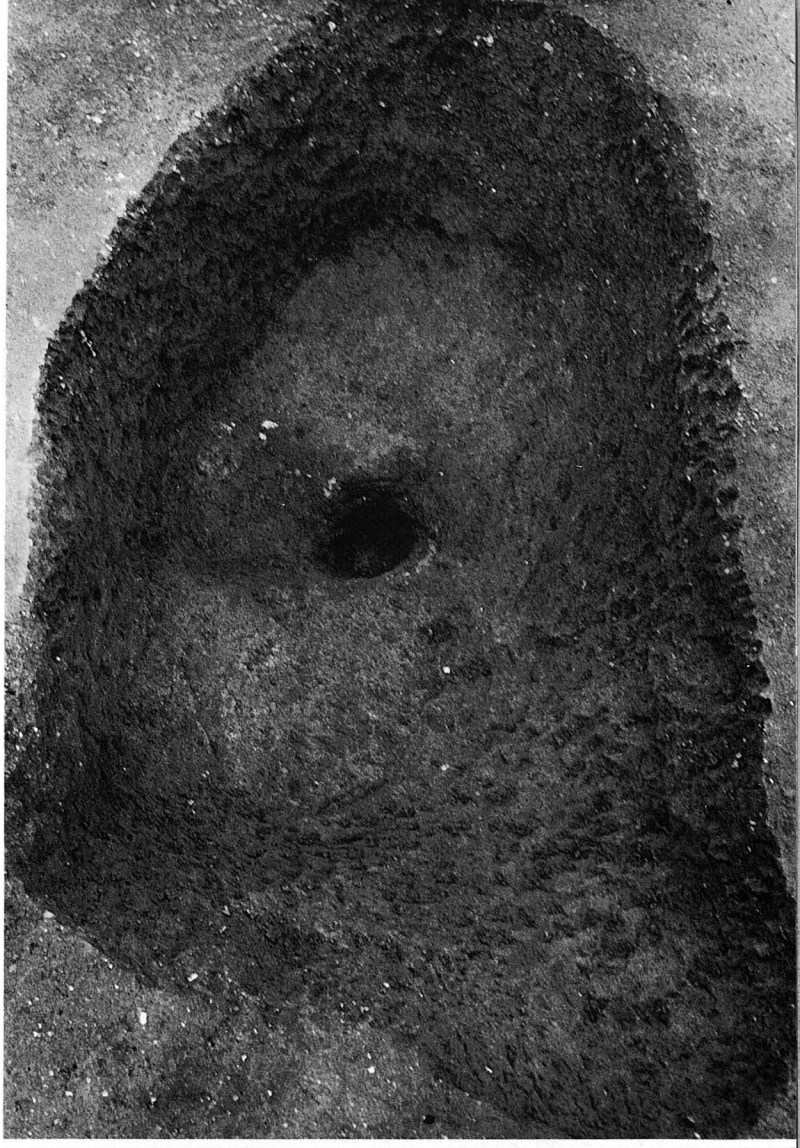
図版11
ＳＫ７土坑（南より）

図版12
ＳＫ８墓壙（東より）

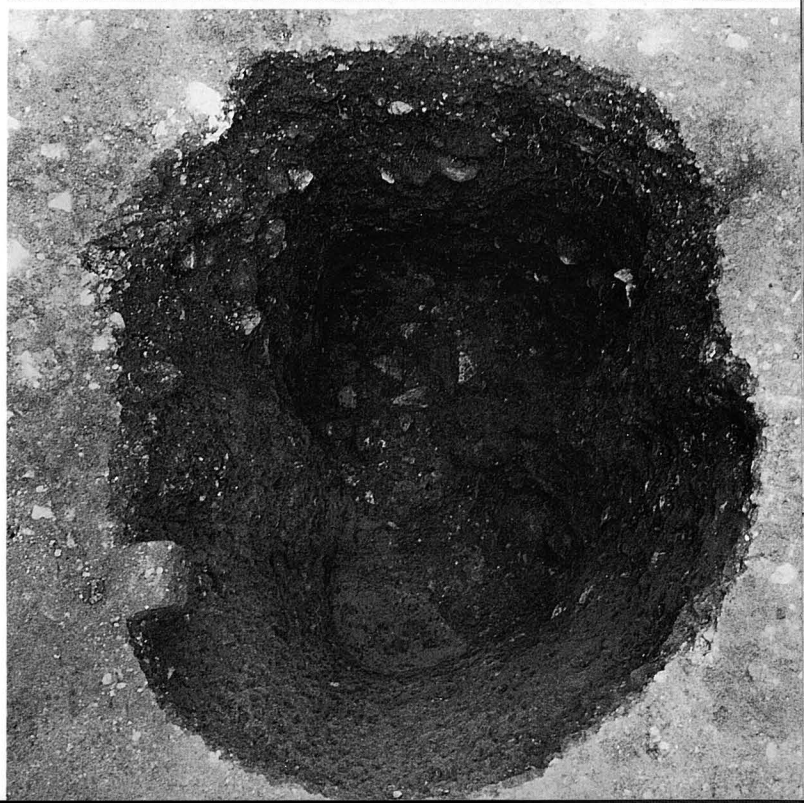


図版13
ＳＫ９土坑（東より）

図版14
ＳＫ11土坑（東より）



図版15
ＳＫ12土坑
（北東より）

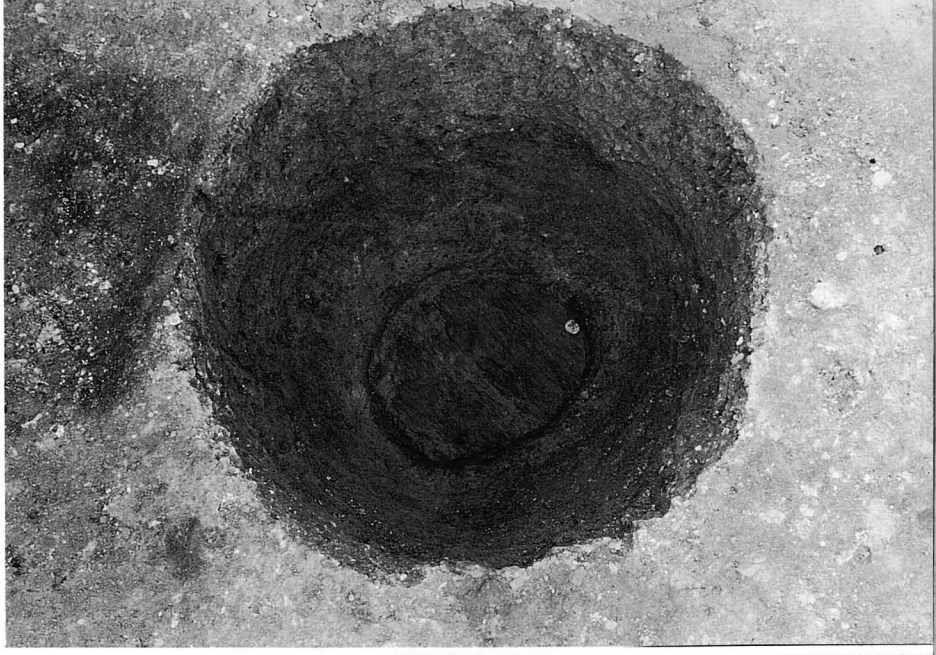


図版16
ＳＫ13土坑
（北より）

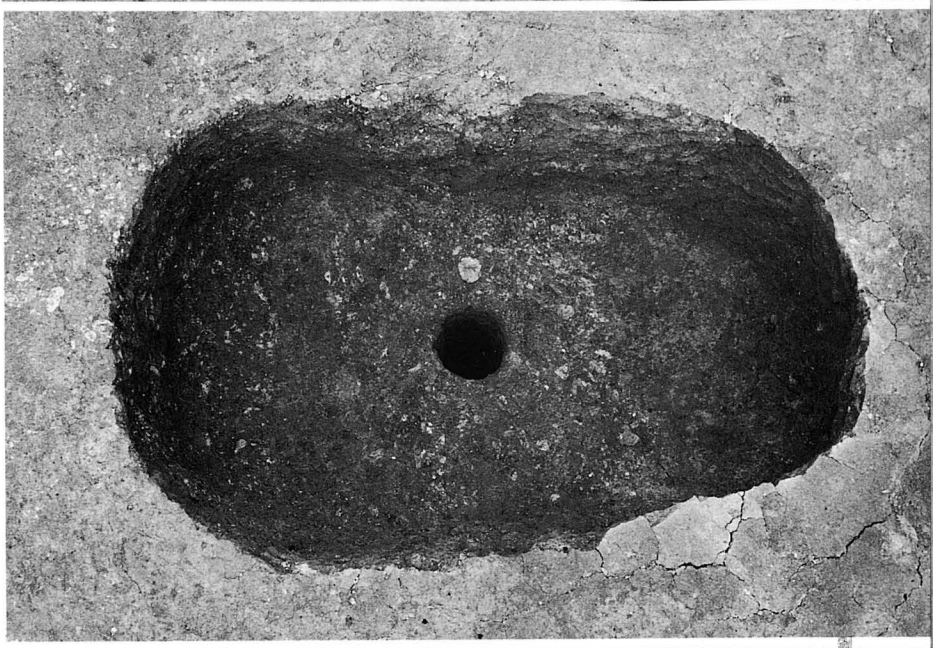
図版17
ＳＫ14土坑
（南より）

図版18
ＳＫ15土坑
（東より）

図版19
ＳＫ16土坑
（西より）

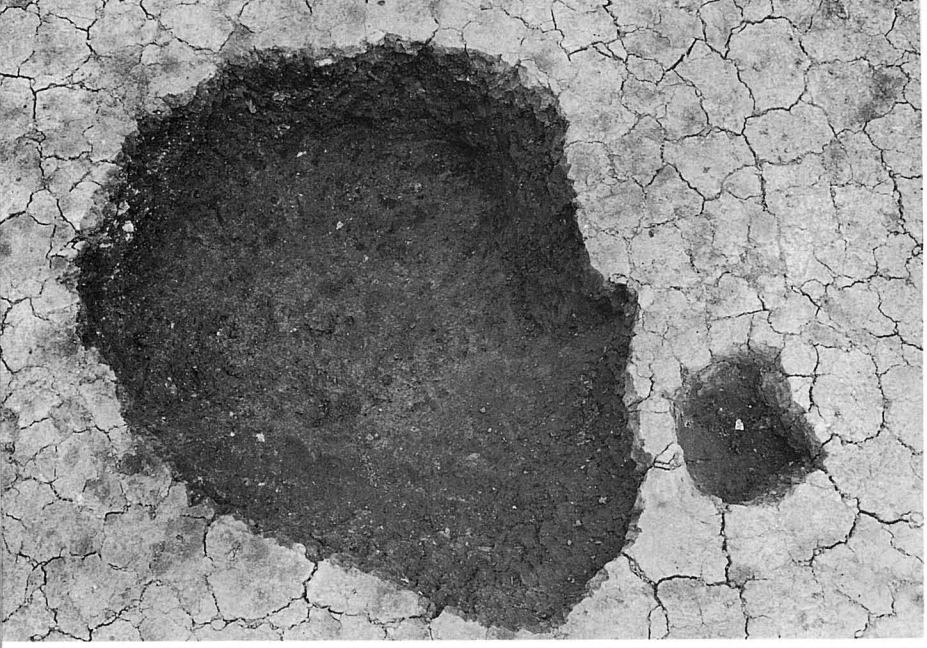


図版20
ＳＫ17墓壙
（南より）

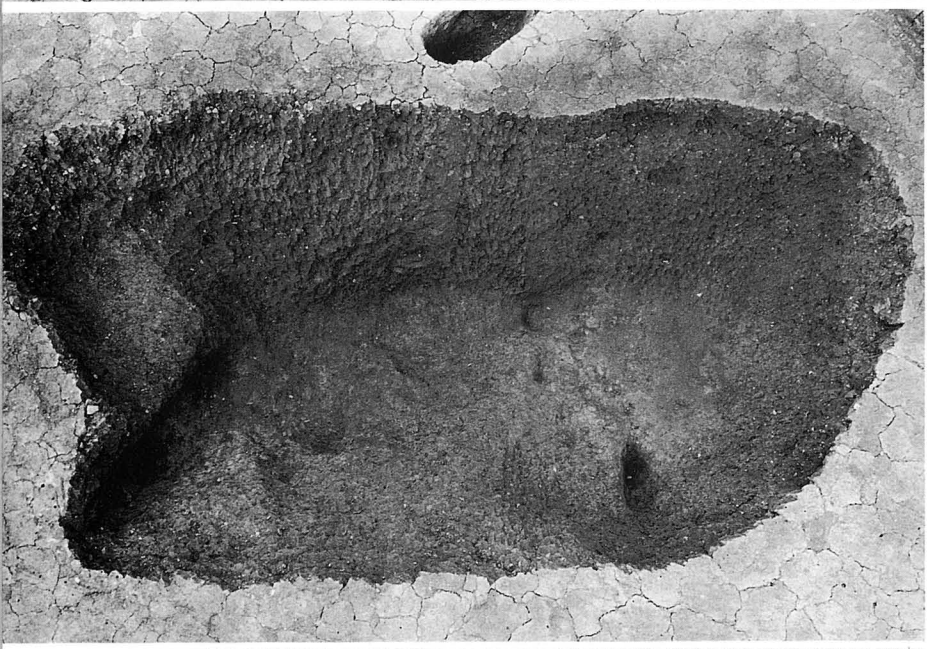


図版21
ＳＫ18土坑
（東より）

図版22
ＳＫ19土坑
（北より）

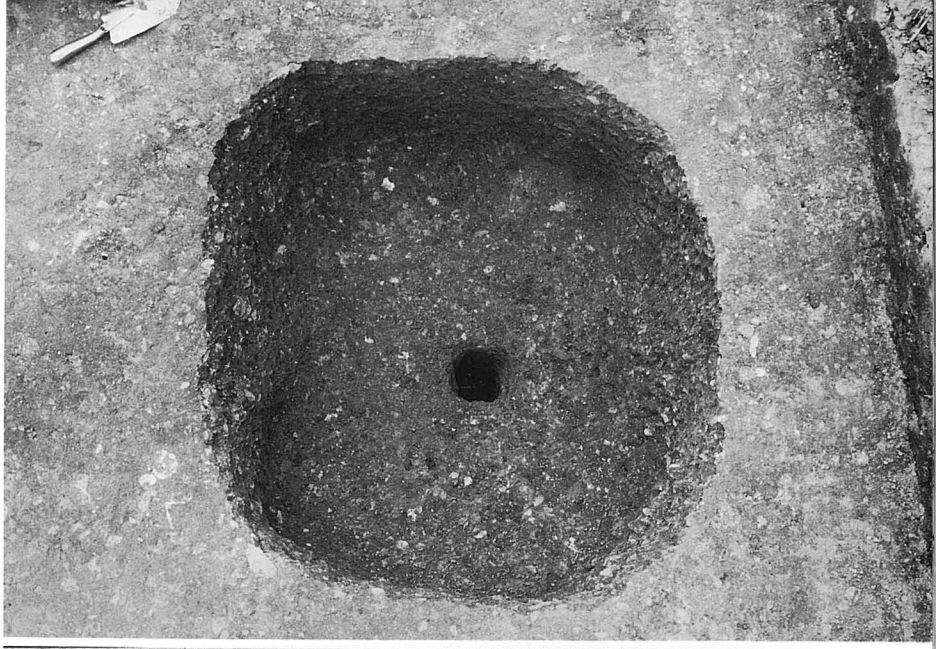


図版23
ＳＫ20土坑
（南より）



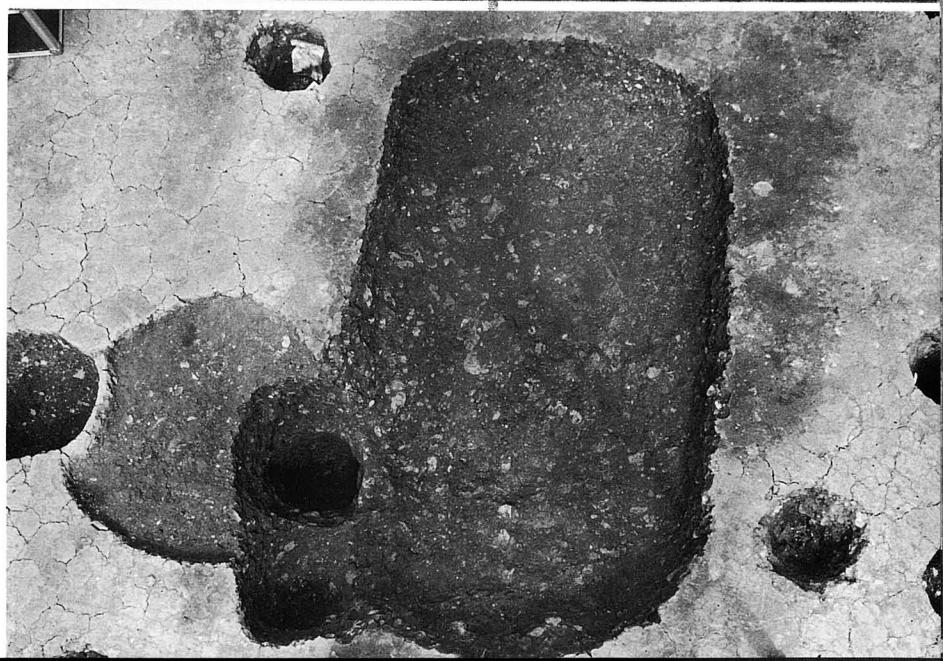
図版24
ＳＫ22土坑
（南西より）

図版25
ＳＫ23土坑
（東より）

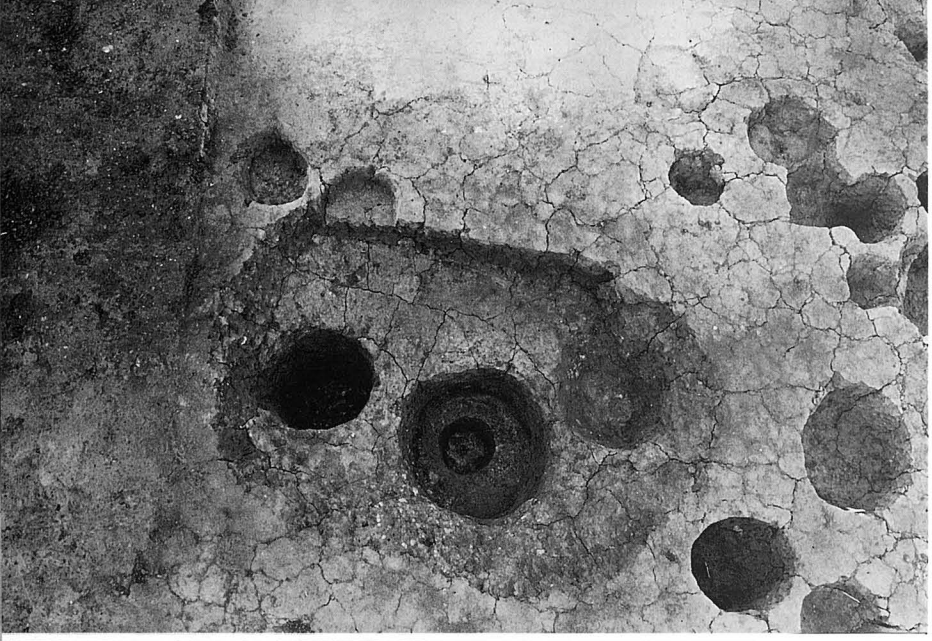


図版26
ＳＫ25土坑
（北より）

図版27
ＳＫ29土坑
（南より）



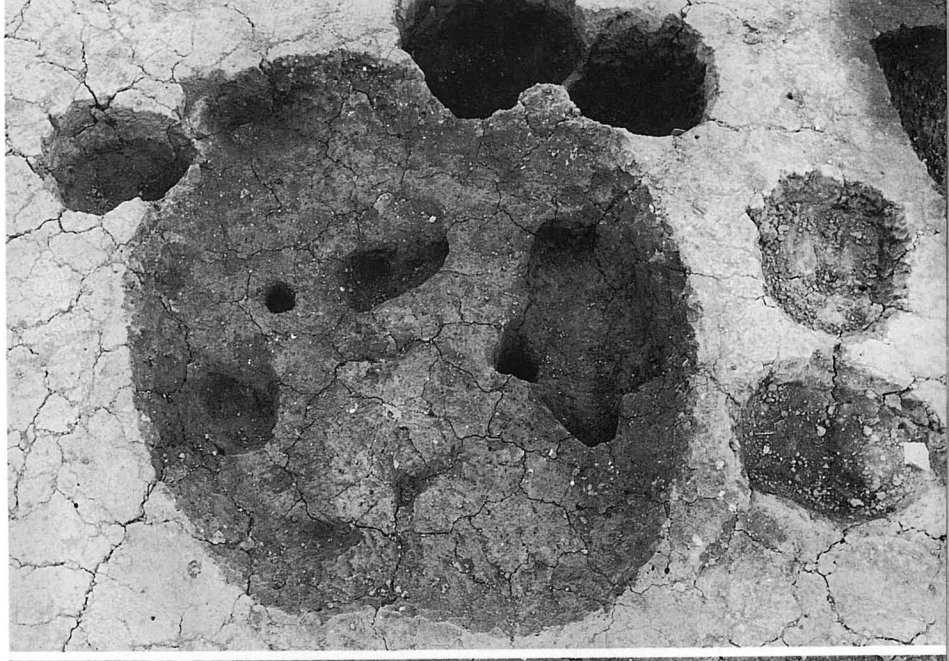
図版28
ＳＫ30土坑
（西より）



図版29
ＳＫ31土坑
（東より）

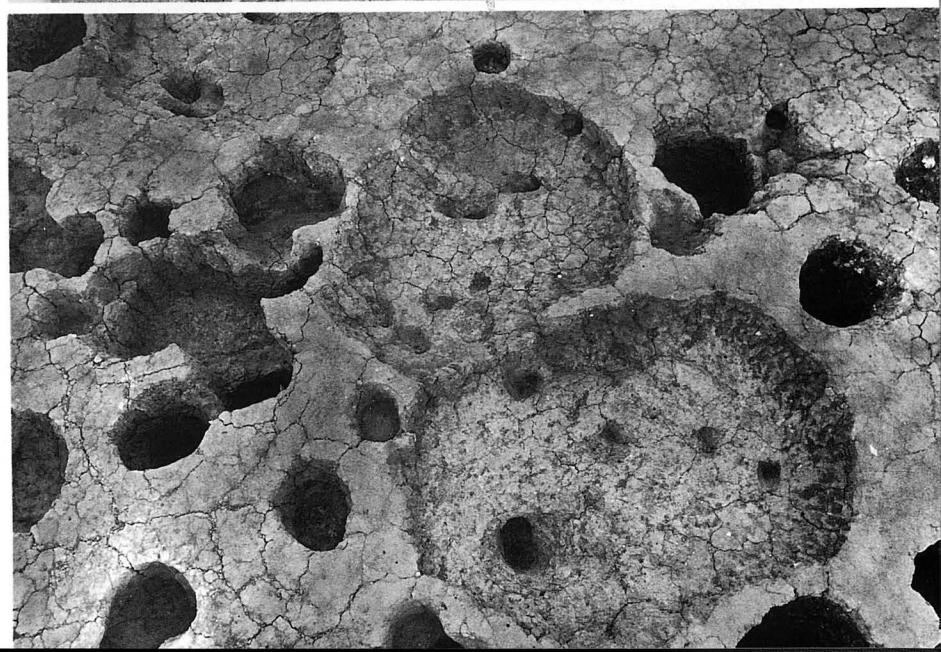
図版30
ＳＫ32土坑
（西より）

図版31
ＳＫ33土坑
（西より）



図版32
ＳＫ34土坑
（西より）

図版33
ＳＫ36土坑
（南より）

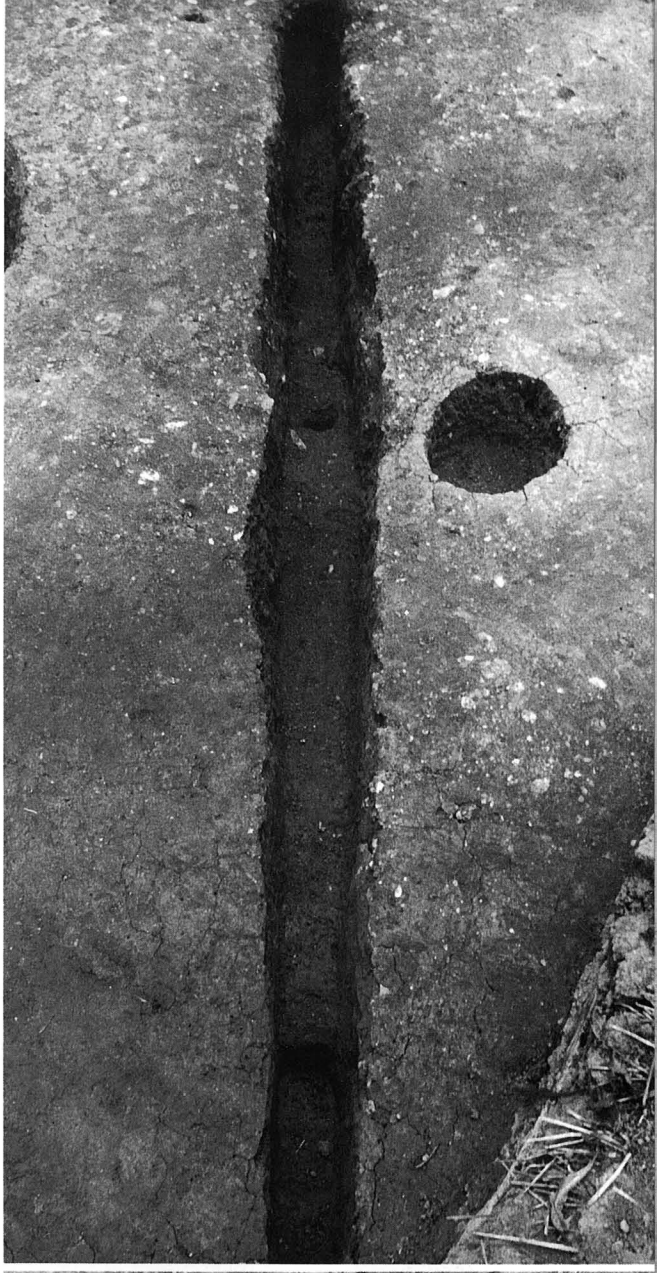


図版34
ＳＫ38・39土坑
（東より）

図版35
ＳＫ50土坑（東より）

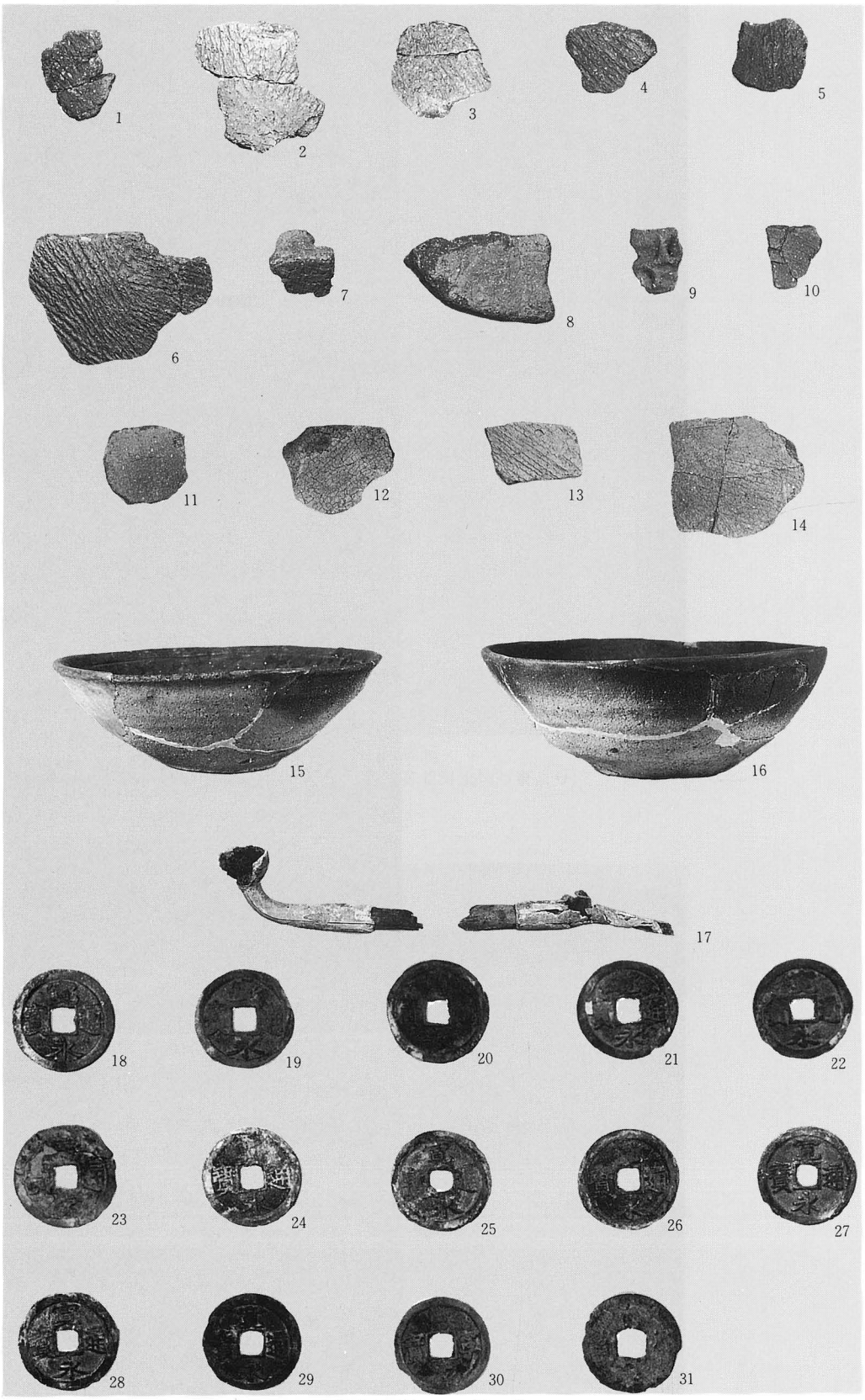
図版36
ＳＫ51土坑（東より）

図版37　ＳＫ41・53土坑
（西より）



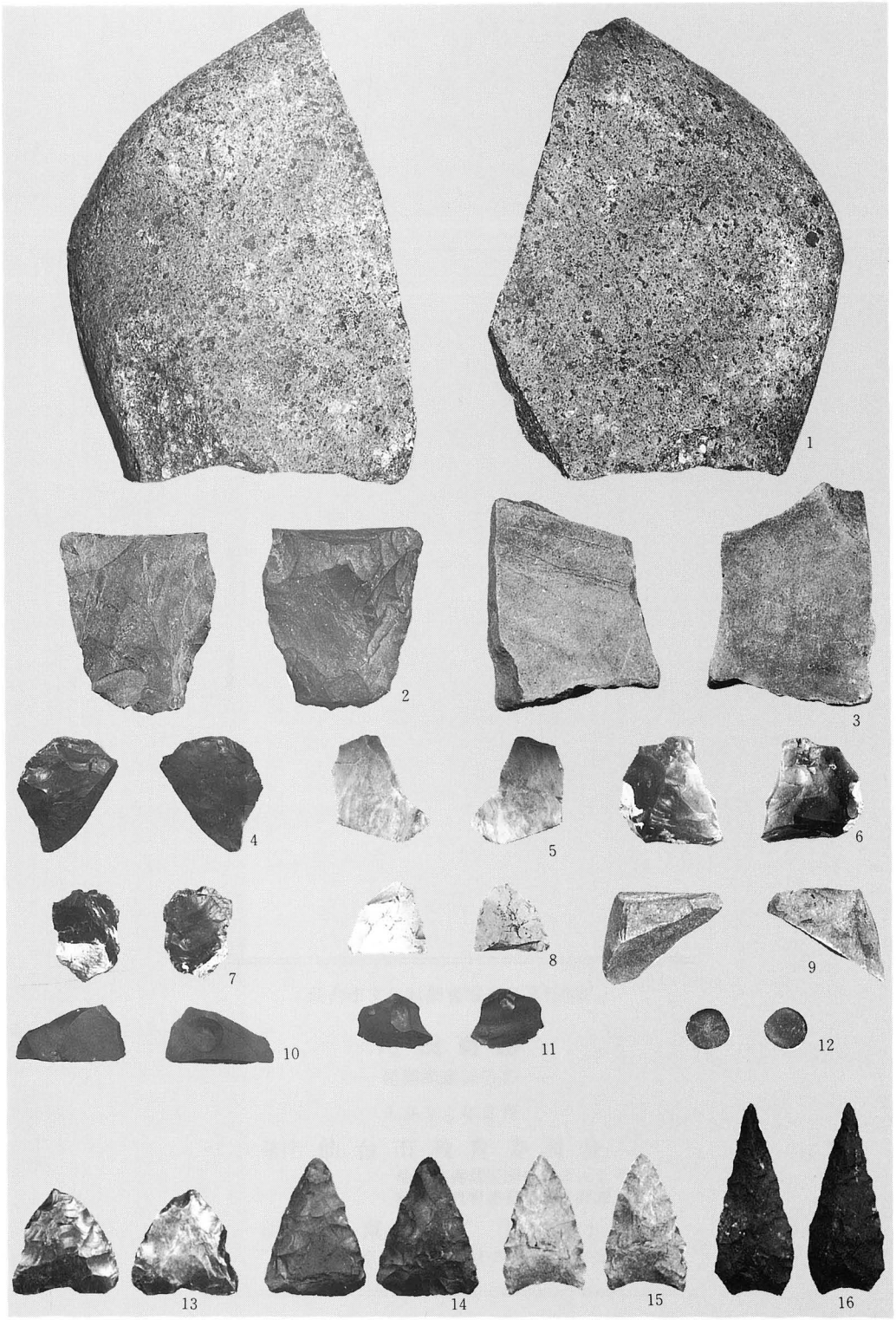
図版38
ＳＫ52土坑（西より）

図版39
２層土師器出土状況
（南より）



図版40　出　土　遺　物

1．縄文土器　A－9　2．縄文土器　A－5　3．縄文土器　A－4　4．縄文土器　A－8
5．縄文土器　A－7　6．縄文土器　A－3　7．縄文土器　A－2　8．縄文土器　A－1
9．縄文土器　A－15　10．縄文土器　A－14　11．縄文土器　A－13　12．縄文土器　A－12
13．縄文土器　A－11　14．縄文土器　A－10　15．土師器坏　D－2　16．土師器坏　D－3
17．キ セ ル　N－6　18．寛永通宝　N-1-1　19．寛永通宝　N-1-2　20．寛永通宝　N-1-3
21．寛永通宝　N-1-4　22．寛永通宝　N-1-5　23．寛永通宝　N-1-6　24．寛永通宝　N-2-1
25．寛永通宝　N-2-2　26．寛永通宝　N-2-3　27．寛永通宝　N-2-4　28．寛永通宝　N-2-5
29．寛永通宝　N-2-6　30．咸淳元宝　N－4　31．熙寧元宝　N－3



図版41　出　土　遺　物

1．凹石　K－8　　2．　　K－12　　3．砥石　K－58　　4．石片　K－18
5．石片　K－15　　6．石片　K－21　　7．石片　K－2　　8．スクレーパー　K－5
9．石片　K－14　　10．石核　K－37　　11．石片　K－43　　12．玉石　K－42
13．石鏃　K－3　　14．石鏃　K－4　　15．石鏃　K－9　　16．石鏃　K－10

仙台市文化財調査報告書第158集

町田遺跡

——発掘調査報告書——

1992年3月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町3－7－1
仙台市教育委員会文化財課

印刷　㈱東北プリント
仙台市青葉区立町24-24　TEL 263-1166